

# 平成25年度 全国輸出入コンテナ貨物流動調査の分析

---

中国地方国際物流戦略チーム事務局

2014年10月17日

# 目次

## 【中国地方管内港湾の現状】

○中国地方の港湾における国際コンテナ取扱貨物量の推移	1
○中国地方の港湾における国際フィーダーコンテナ取扱貨物量	2
○中国地方の港湾における定期コンテナ航路の就航状況	3

## 【全国輸出入コンテナ貨物流動調査】

### <全国版>

○平成25年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査の概要	4
○コンテナ貨物量の推移（輸出、輸入）	5
○コンテナ貨物をやりとりする相手地域	6
○国際コンテナ戦略港湾の背後圏（京浜港）－平成25年調査－	7
○国際コンテナ戦略港湾の背後圏（阪神港）－平成25年調査－	8
○トランシップ率	9
○コンテナ貨物の流動状況概略図－平成25年調査－	10

### <中国地方版>

○コンテナ貨物量の推移（輸出、輸入）	12
○中国地方における県別の輸出・輸入コンテナ貨物量	13
○中国地方における県別の輸出・輸入コンテナ貨物の割合	14
○中国地方における県別の輸出・輸入コンテナ貨物の取扱品目－平成25年調査－	15
○コンテナ貨物をやりとりする相手地域	18
○コンテナ貨物の流動状況概略図－平成25年調査－	21
○世界との貿易における輸送形態と海外トランシップ港－平成25年調査－	23
○世界との貿易における輸送形態の変化（平成20年と平成25年の比較）	26

### （参考資料）

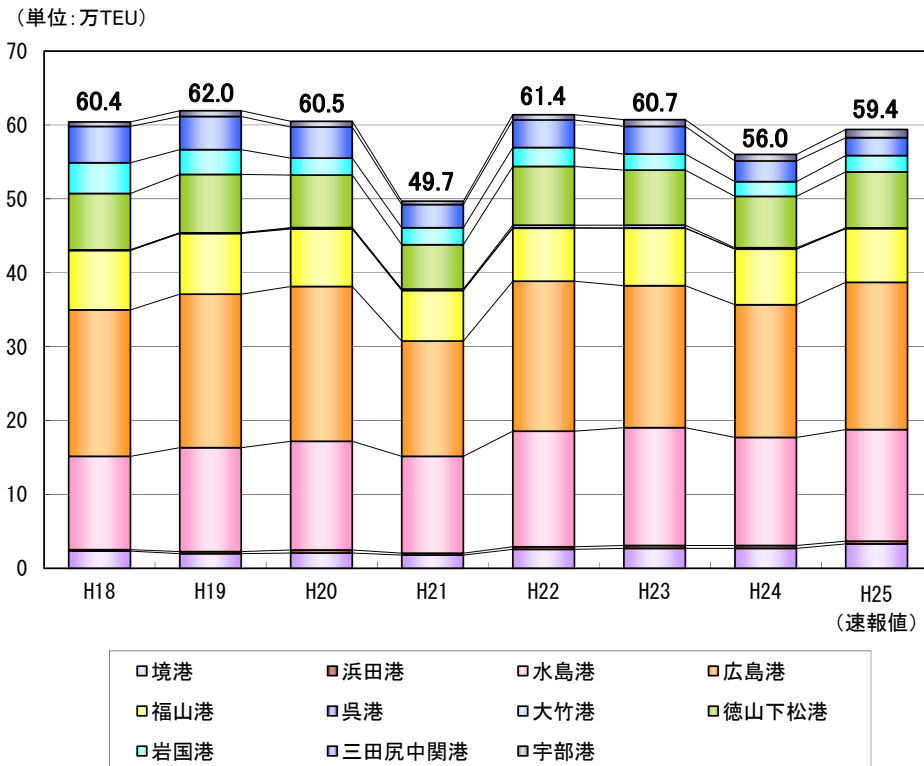
○コンテナ貨物をやりとりする相手地域別コンテナ貨物量－平成25年調査－	29
○中国地方における県別のコンテナ貨物輸送の利用港湾（船積・船卸港）の割合	32
○コンテナ貨物の利用港湾（船積・船卸港）までの国内輸送手段	33
○船積・船卸港別のコンテナ貨物をやりとりする相手地域	34
○コンテナ貨物をやりとりする相手地域・国別コンテナ貨物量－平成25年調査－	37
○国際コンテナ貨物を取り扱う中国地方の港湾における背後圏－平成25年調査－	40

# 中国地方の港湾における国際コンテナ取扱貨物量の推移

- 中国地方の港湾(下関港を除く)における国際コンテナ取扱貨物量※は近年、60万TEU程度で推移。
- 平成25年の国際コンテナ取扱貨物量は59.4万TEUで、対前年比約6%の増加。
- 港別に見ると、広島港、水島港、徳山下松港、福山港の順に取扱量が多い。

※『国際コンテナ取扱貨物量』とは、「外貨コンテナ取扱貨物量」と「国際フィーダーコンテナ取扱貨物量」を足し合わせた取扱貨物量であり、中国地方の港湾を介して輸出入された正味のコンテナ取扱貨物量である。

【国際コンテナ取扱貨物量の推移】



【国際コンテナ取扱貨物量(空コンテナを含む)】

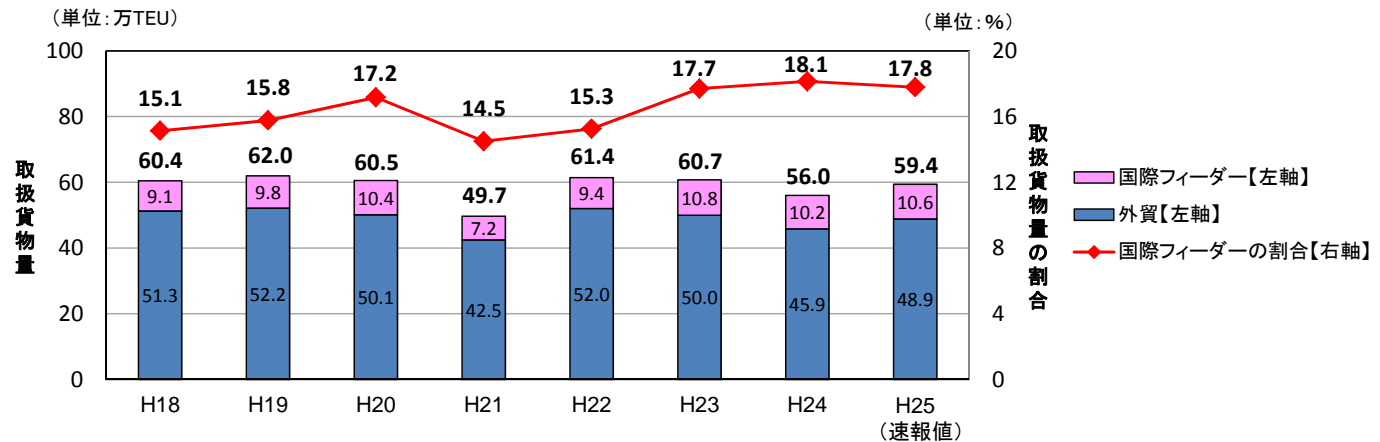
(単位:TEU)

港湾名	平成24年			平成25年(速報値)			平成24年からの増減(TEU)	平成24年からの伸び率		
	合計	出	入	合計	出	入		合計	出	入
境港	27,157	14,117	13,040	32,997	16,997	16,000	5,840	21.5%	20.4%	22.7%
浜田港	3,598	1,815	1,783	3,913	1,948	1,965	315	8.8%	7.3%	10.2%
水島港	146,433	76,090	70,343	150,783	76,626	74,157	4,350	3.0%	0.7%	5.4%
広島港	179,596	88,104	91,492	199,523	101,298	98,225	19,927	11.1%	15.0%	7.4%
福山港	75,291	35,992	39,299	72,654	34,358	38,296	▼2,637	▼3.5%	▼4.5%	▼2.6%
呉港	243	127	116	0	0	0	▼243	皆減	皆減	皆減
大竹港	1,875	1,748	127	1,081	1,081	0	▼794	▼42.3%	▼38.2%	皆減
徳山下松港	69,431	44,491	24,940	75,865	51,137	24,728	6,434	9.3%	14.9%	▼0.9%
岩国港	19,801	13,626	6,175	22,103	16,077	6,026	2,302	11.6%	18.0%	▼2.4%
三田尻中関港	27,925	18,978	8,947	24,113	14,139	9,974	▼3,812	▼13.7%	▼25.5%	11.5%
宇部港	9,015	4,861	4,154	11,150	6,114	5,036	2,135	23.7%	25.8%	21.2%
合計	560,365	299,949	260,416	594,182	319,775	274,407	33,817	6.0%	6.6%	5.4%

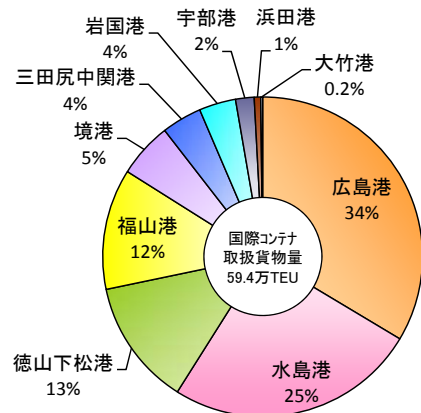
# 中国地方の港湾における国際フィーダーコンテナ取扱貨物量

- 平成25年における国際コンテナ取扱貨物量に対する国際フィーダーコンテナ取扱貨物量の割合は17.8%であり、近年横這いで推移している。
- 平成25年の国際フィーダーコンテナ取扱貨物量の港別内訳は、広島港と水島港における取扱量のみで全体の約8割を占めている。

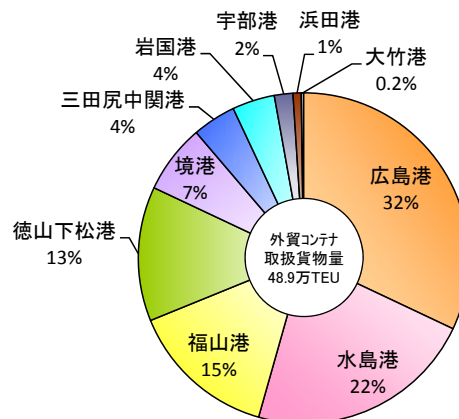
【国際コンテナ取扱貨物量に占める国際フィーダーコンテナ取扱貨物量の割合】



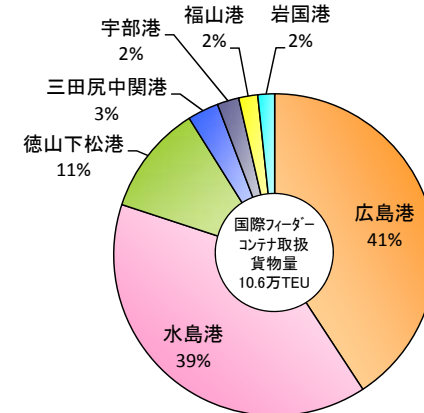
【平成25年国際コンテナ取扱貨物量の港別シェア】



【平成25年外貨コンテナ取扱貨物量の港別シェア】



【平成25年国際フィーダーコンテナ取扱貨物量の港別シェア】






# 中国地方の港湾における定期コンテナ航路の就航状況（平成26年9月30日現在）

外貨コンテナ定期航路

内貨コンテナ定期航路

凡例

- ：国際拠点港湾
- ：重要港湾
- ：地方港湾  
(定期コンテナ航路がある港湾のみ)

韓国 週5便  
中国 週1便  
韓国・ロシア 週1便 (※)

(※DBSクルーズフェリー:コンテナ取扱可能な定期航路)

韓国 週1便  
ロシア 週0.5便 (RORO船)

千葉・阪神 週4便 (RORO船)  
東京・博多 週3便 (RORO船)

韓国 週8便  
中国 週7便  
東南アジア 週1便

阪神 週9便  
沖縄 週1便

韓国 週5便  
中国 週6便  
台湾・東南アジア 週1便

阪神 週1便

韓国 週10便  
中国 週6便  
台湾・東南アジア 週2便  
北米 週0.25便 (月1便)

阪神 週9便  
千葉 週3便 (RORO船)

沖縄 週1便

韓国 週2便  
阪神 週2便

韓国 週7便  
中国 週3便  
東南アジア 週1便

阪神 週7便  
九州諸港 週2便  
千葉 週3.75便

韓国 週3便  
中国 週1便  
中国・台湾 週1便

阪神 週1便  
千葉 週1便  
東京・博多 週3便 (RORO船)

韓国 週2便

阪神 週1便  
大分 週3便  
四日市 週1便

韓国 週1便  
中国 週2便  
東南アジア 週1便

阪神 週2便

(※下関港は九州地方整備局所管)

(中国地方整備局 港湾空港部調べ)

# 平成25年度全国輸出入コンテナ貨物流動調査の概要

## 概要

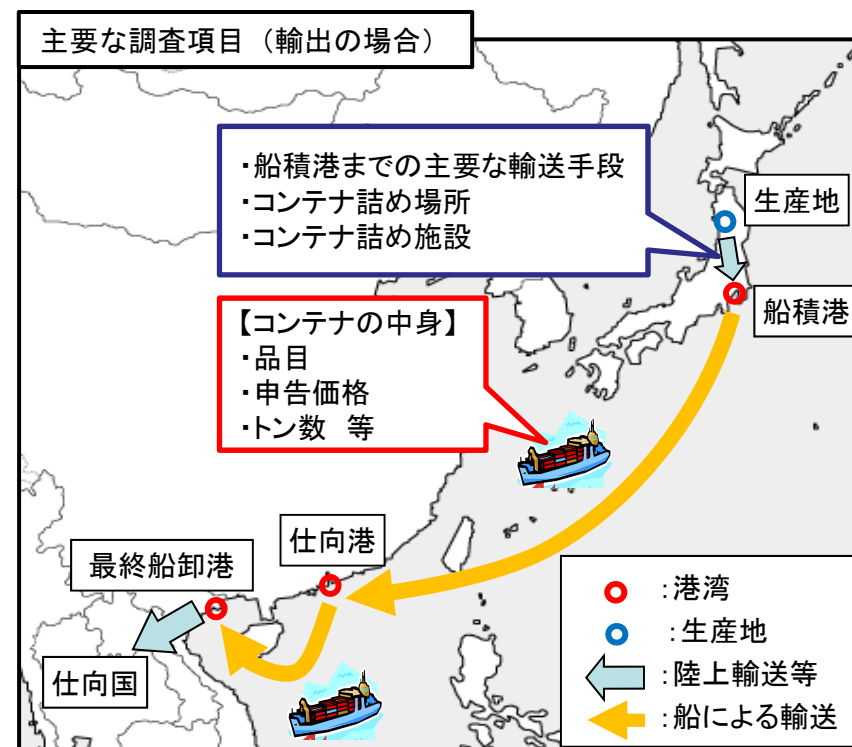
- 国土交通省港湾局では、我が国発着の国際海上コンテナの流動を詳細に把握するため、5年に1度、「全国輸出入コンテナ貨物流動調査」を実施

## 調査目的

- 本調査は、国際海上コンテナ貨物の流動を把握することにより、効率的な物流体系を構築するための港湾政策の企画立案、港湾整備計画の検討等へ活用

## 調査内容

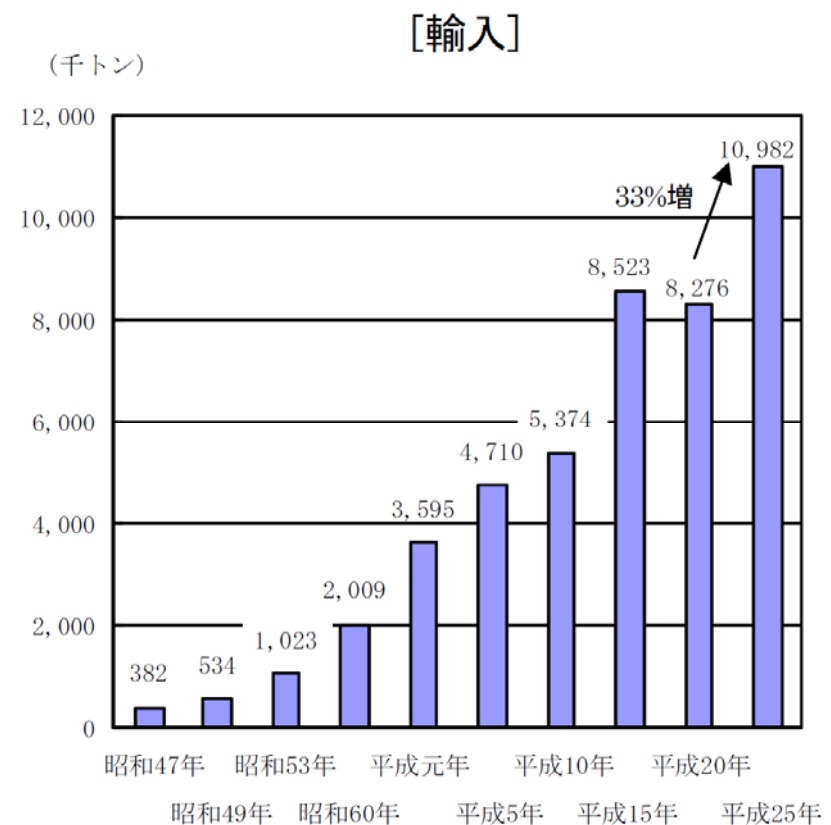
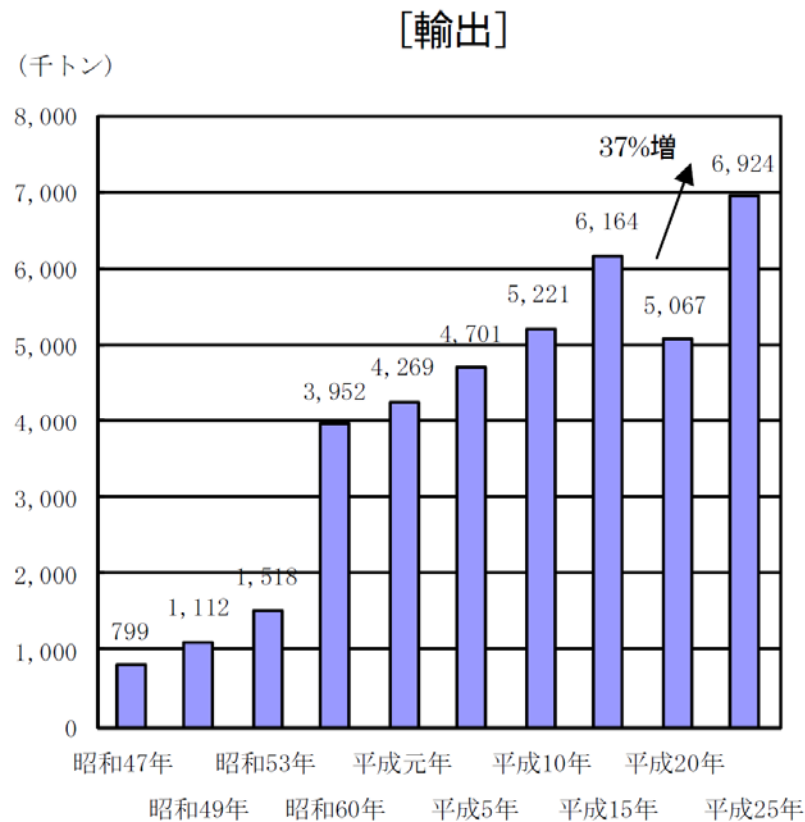
- 調査範囲：  
国際海上コンテナ貨物の以下の流動実態  
（輸出）国内の生産地から海外の仕向国までの流動実態  
（輸入）海外の原産国から国内の消費地までの流動実態
- 調査期間：  
平成25年11月1日から30日までの1ヶ月間
- 調査対象：  
上記期間中に通関申告が行われる海上コンテナ貨物全量  
（ただし、空コンテナの流動は含まない）



## 【全国版】コンテナ貨物量の推移（輸出、輸入）

○輸出コンテナの貨物量は692万トン。前回(平成20年11月)は、507万トンであり、今回、大幅に増加(36.6%増)。

○輸入コンテナの貨物量は1,098万トン。前は、828万トンであり、今回、大幅に増加(32.7%増)。

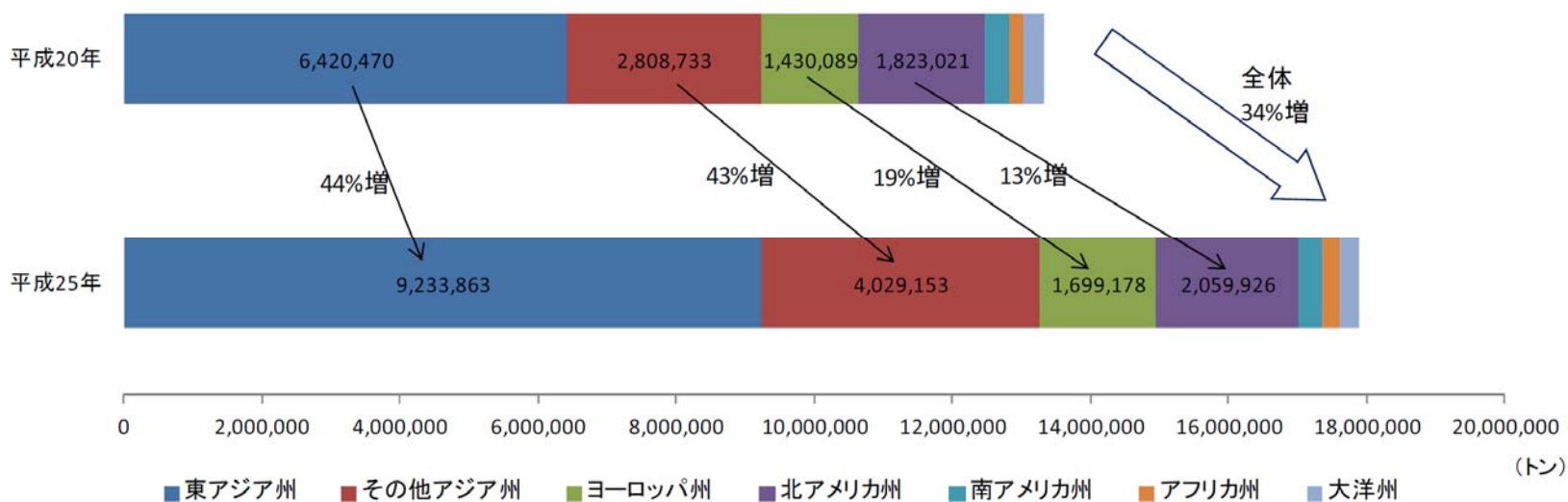


# 【全国版】コンテナ貨物をやりとりする相手地域

- 地域別に見ると、東アジア州、その他アジア州、北アメリカ州の順に貨物量が多い。
- 前回調査と比較すると、東アジア州は44%増、その他アジア州は43%増、北アメリカ州は13%増、ヨーロッパ州は19%増。

相手地域ごとのコンテナ貨物量

	(トン)	
	平成20年	平成25年
東アジア州	6,420,470	9,233,863
その他アジア州	2,808,733	4,029,153
ヨーロッパ州	1,430,089	1,699,178
北アメリカ州	1,823,021	2,059,926
南アメリカ州	350,260	352,294
アフリカ州	205,916	241,754
大洋州	303,741	289,897
	13,342,230	17,906,065



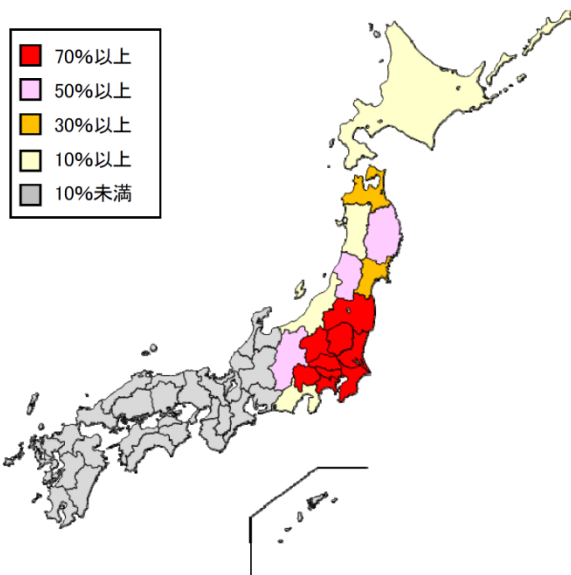


# 【全国版】国際コンテナ戦略港湾の背後圏（京浜港） -平成25年調査-

- 各都道府県で生産・消費されるコンテナ貨物のうち京浜港を利用するものの割合は、東日本各県で高い。関東各都県では京浜港の利用割合が70%以上であり、東北地方、中部地方でも50%以上の県が存在。
  - 京浜港利用コンテナ貨物の生産地・消費地の構成をみると、直背後の東京都、神奈川県を発着するものは4割程度であり、それ以外は東日本各地に広がる。
- ⇒京浜港は東日本全体の広域インフラとして機能していることが改めて示唆。

生産地・消費地別京浜港利用割合（輸出入計）

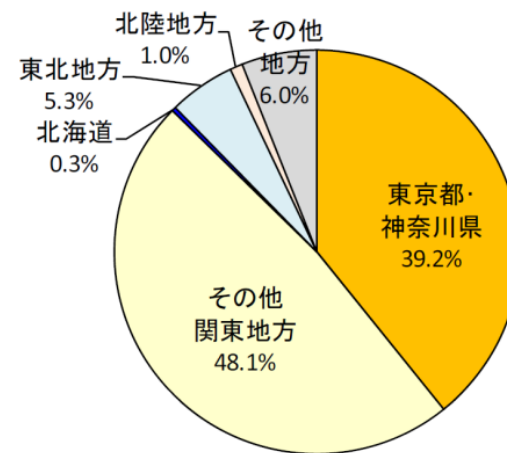
【平成25年】



北海道	計	13%
東北	青森	40%
	岩手	51%
	宮城	49%
	秋田	17%
北	山形	57%
	福島	82%
関東	計	96%
	茨城	96%
	栃木	95%
	群馬	99%
	埼玉	98%
	千葉	94%
東	東京	91%
	神奈川	98%

京浜港利用のコンテナ貨物の生産地・消費地構成（輸出入計）

【平成25年】

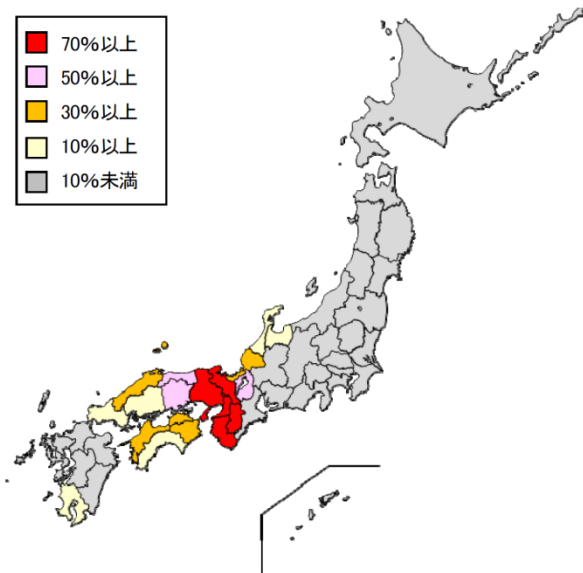


# 【全国版】国際コンテナ戦略港湾の背後圏（阪神港） —平成25年調査—

- 各都道府県で生産・消費されるコンテナ貨物のうち阪神港を利用するものの割合は、西日本各県で高い。関西各府県では阪神港の利用割合が70%以上であり、中国地方でも50%以上の県が存在。
  - 阪神港利用コンテナ貨物の生産地・消費地の構成をみると、直背後の大阪府、兵庫県を発着するものは3分の2程度であり、それ以外は西日本各地に広がる。
- ⇒阪神港は西日本全体の広域インフラとして機能していることが改めて示唆。

生産地・消費地別阪神港利用割合（輸出入計）

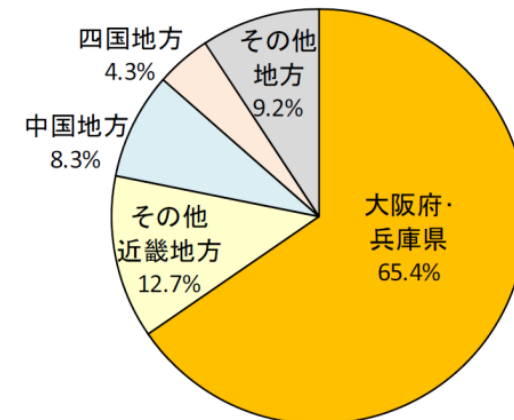
【平成25年】



近畿	計	91%
	滋賀	52%
	京都	89%
	大阪	94%
	兵庫	98%
	奈良	95%
中国	和歌山	96%
	計	34%
	鳥取	55%
	島根	47%
	岡山	64%
四国	広島	29%
	山口	14%
	計	45%
	徳島	49%
	香川	45%
	愛媛	47%
	高知	20%

阪神港利用のコンテナ貨物の生産地・消費地構成（輸出入計）

【平成25年】

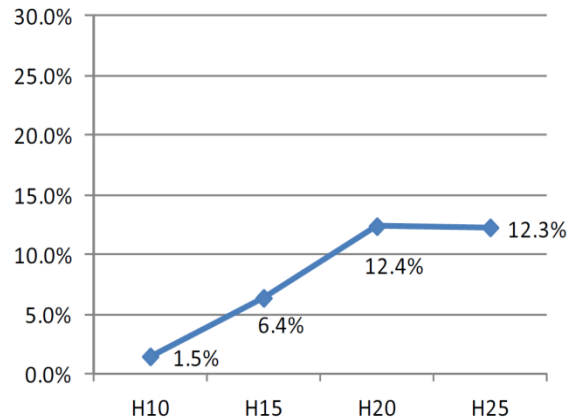


# 【全国版】トランシップ率

(日本を発着するコンテナ貨物のうち東アジアの主要港で積み替えられる貨物が占める割合)

- トランシップ率(日本を発着するコンテナ貨物のうち東アジアの主要港で積み替えられる貨物が占める割合)を方面別にみると、北米方面については、前回の12.4%が12.3%に微減となり、トランシップ率の上昇に歯止め。特に釜山港において積み替えられるものが、前回の11.3%から10.8%となり、0.5ポイント低下。
- 一方で、欧州方面については、船社のアライアンスの進展等により、前回12.9%から24.6%に大幅に上昇。前回5年前と比較して、日本に寄港する欧州航路が減少し、直行便のスペースが十分確保できず、トランシップせざるを得ない貨物が増加しているものと考えられる。  
(京浜港:週6便→2便、阪神港:週4便→2便)

(北米方面)

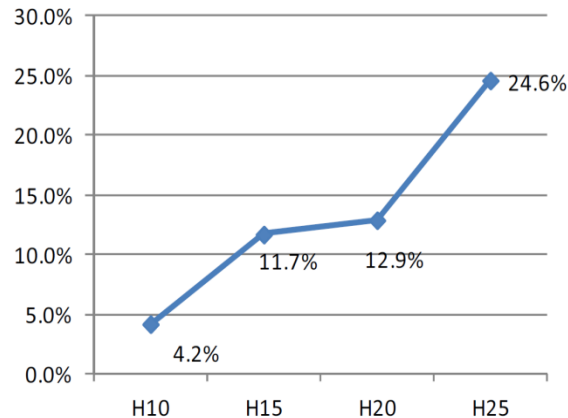


(参考)

北米航路の週あたり便数

	H20	H25
京浜港	32 便	29 便
阪神港	19 便	12 便

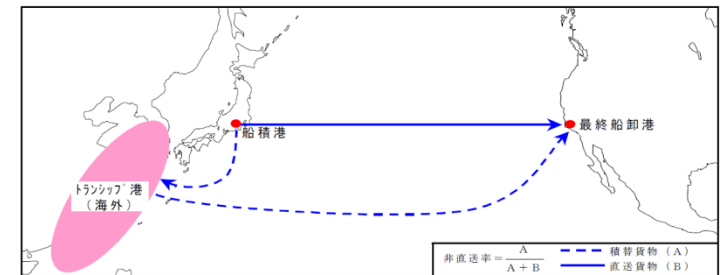
(欧州方面)



欧州航路の週あたり便数

	H20	H25
京浜港	6 便	2 便
阪神港	4 便	2 便

トランシップ貨物のイメージ (北米向け貨物の場合)

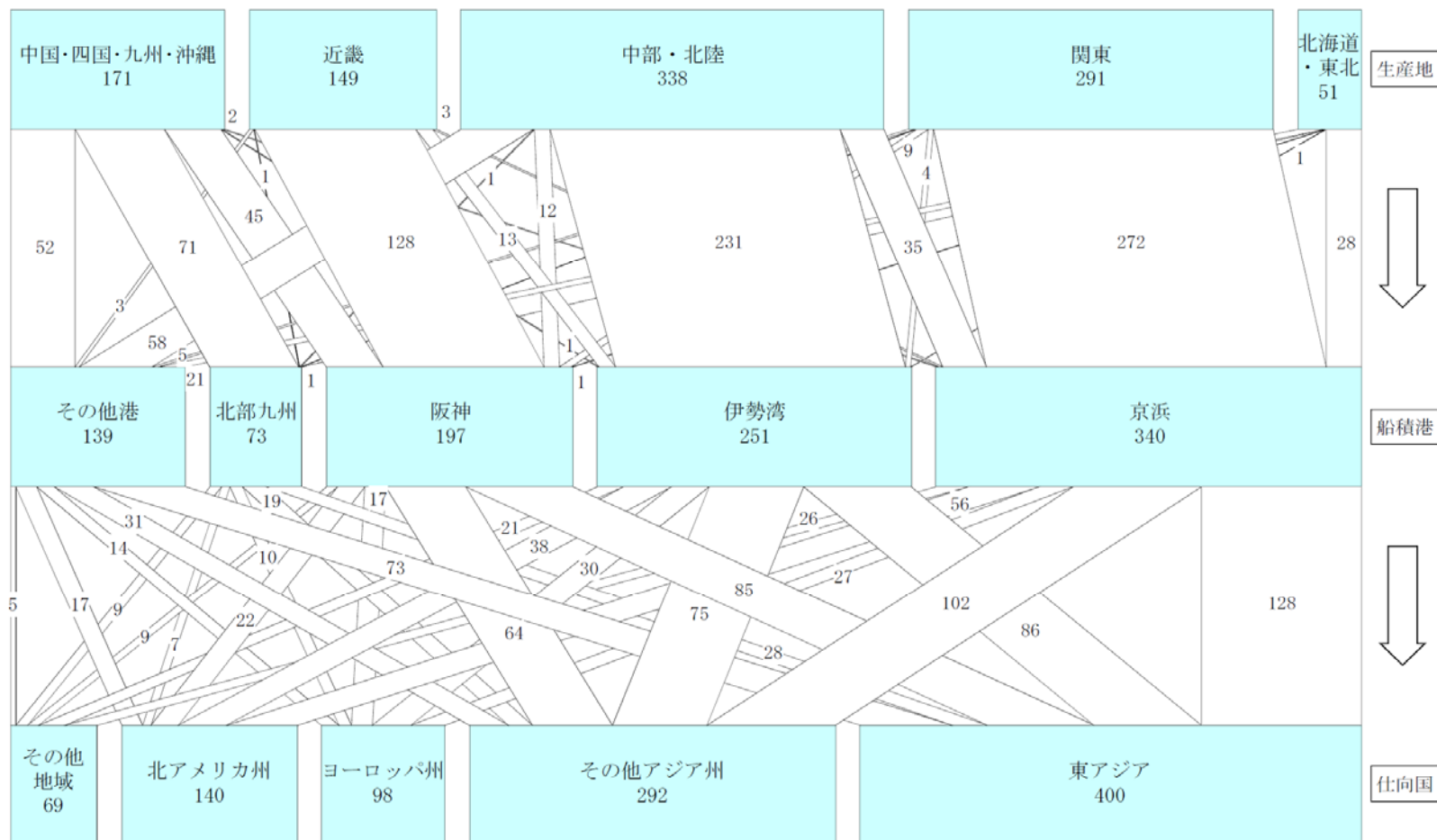


トランシップ貨物 (A) ---  
 ダイレクト貨物 (B) —

$$\text{トランシップ率} = \frac{A}{A + B}$$

# 【全国版】コンテナ貨物の流動状況概略図（輸出） —平成25年調査—

コンテナ貨物の流動状況（輸出） —（生産地～船積港～仕向国）—

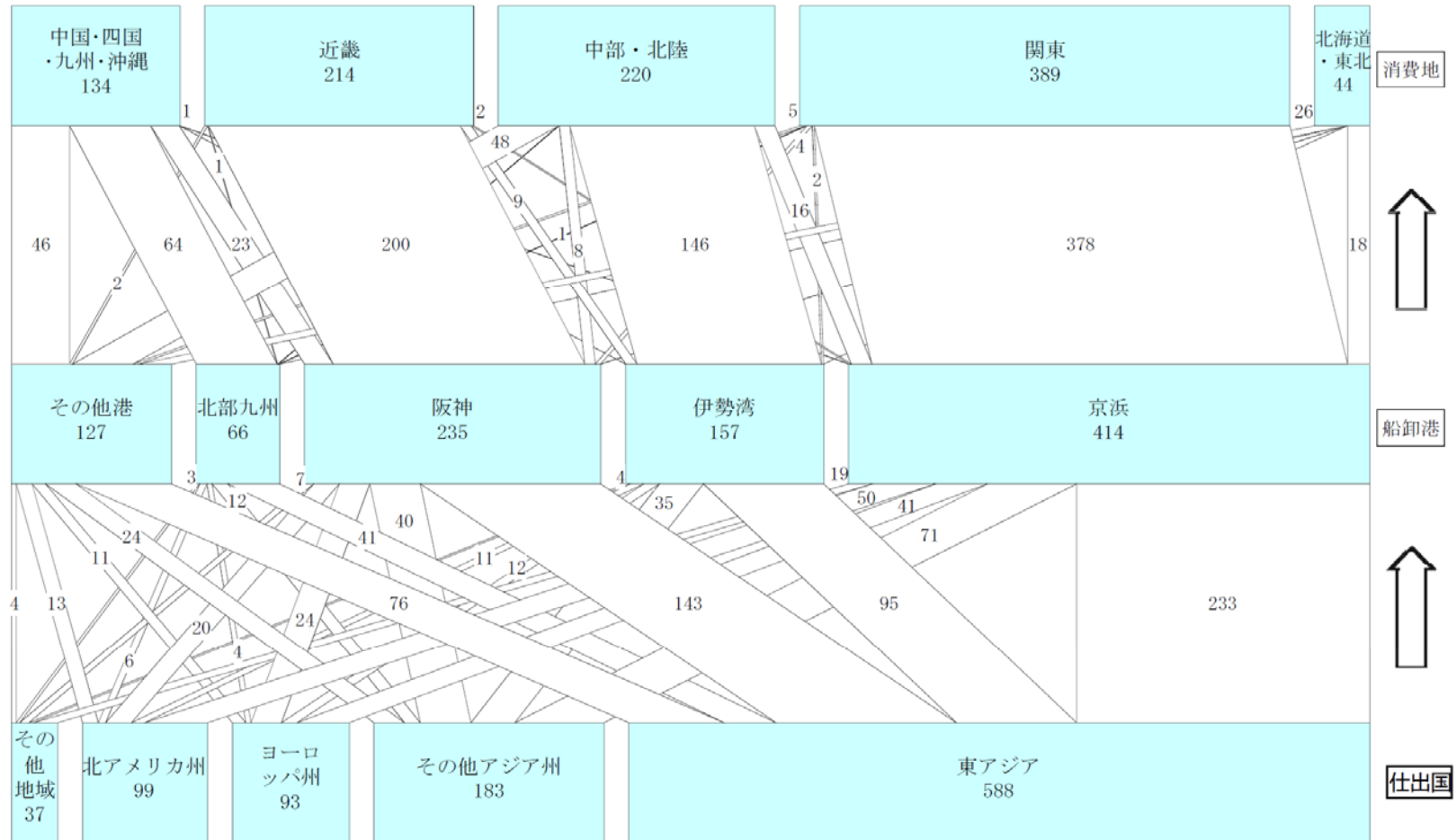


注：期間中に全国の港から輸出された貨物 6,924,414 トンを 1,000 とした。

※東アジアは韓国、中国、台湾、香港の合計  
 その他地域には、南アメリカ州、アフリカ州、大洋州が含まれる

# 【全国版】コンテナ貨物の流動状況概略図（輸入） —平成25年調査—

コンテナ貨物の流動状況（輸入） —（仕出国～船卸港～消費地）—



注：期間中に全国の港に輸入された貨物 10,981,651 トンを 1,000 とした。

※東アジアは韓国、中国、台湾、香港の合計

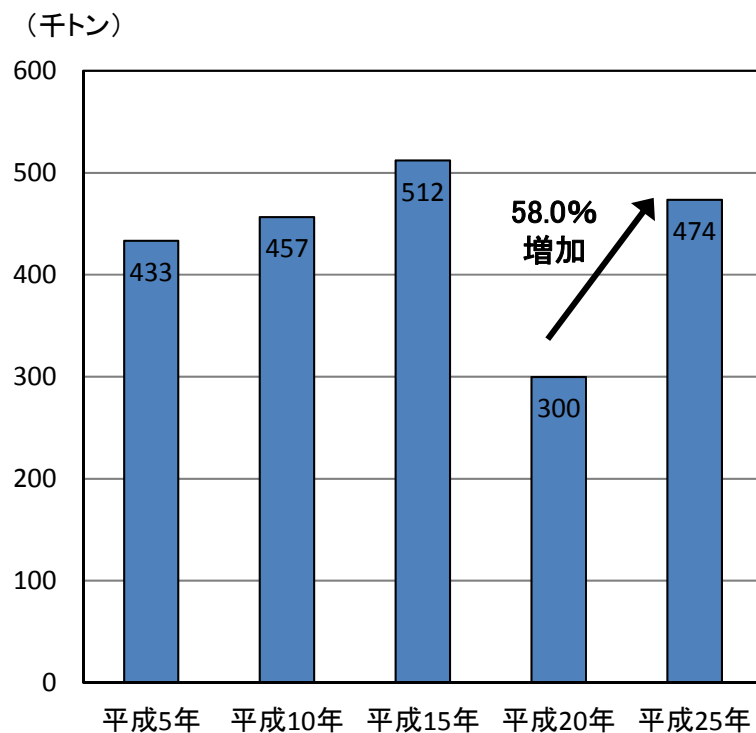
その他地域には、南アメリカ州、アフリカ州、大洋州が含まれる

## 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】 コンテナ貨物量の推移（輸出、輸入）

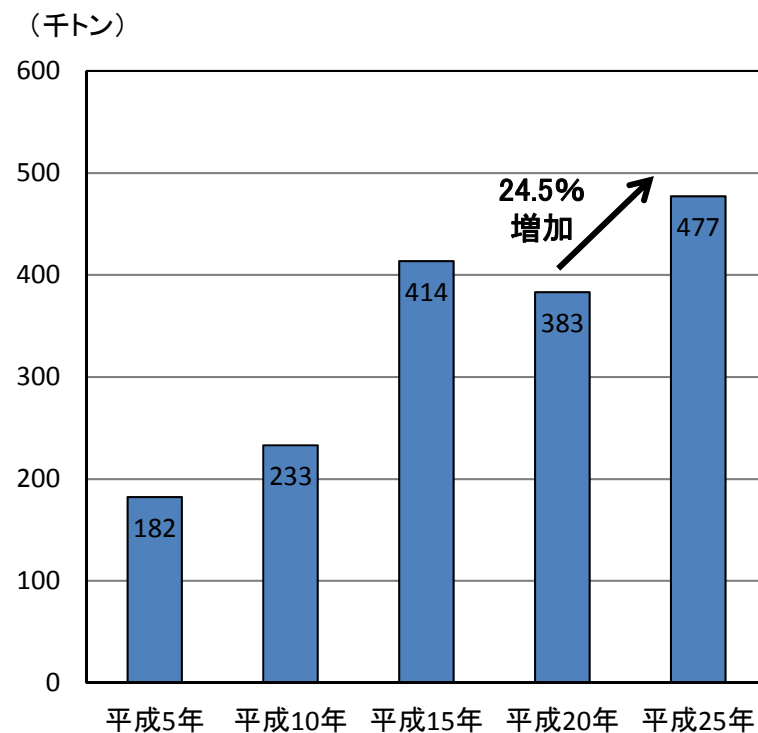
○輸出コンテナの貨物量は474千トン。前回(平成20年11月)は、300千トンであり、今回、大幅に増加(58%増)。

○輸入コンテナの貨物量は477千トン。前回は、383千トンであり、今回、大幅に増加(24.5%増)。

[輸出]



[輸入]

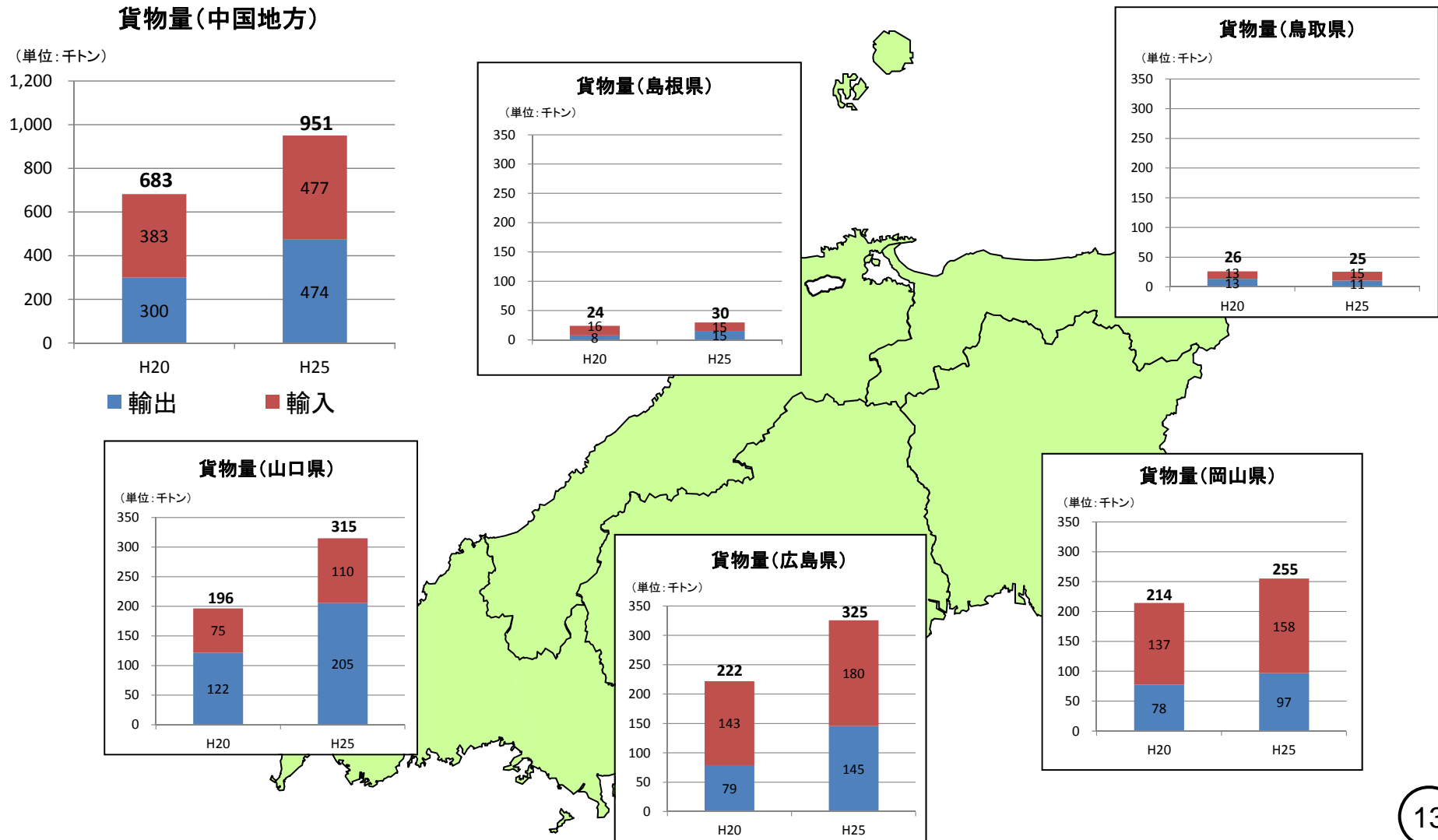


# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## 中国地方における県別の輸出・輸入コンテナ貨物量

○県別に見ると、広島県、山口県、岡山県、島根県、鳥取県の順に貨物量が多い。

○中国地方における県別の国際コンテナ貨物量は前回(平成20年11月)と比べて、鳥取県を除く4県で増加している。

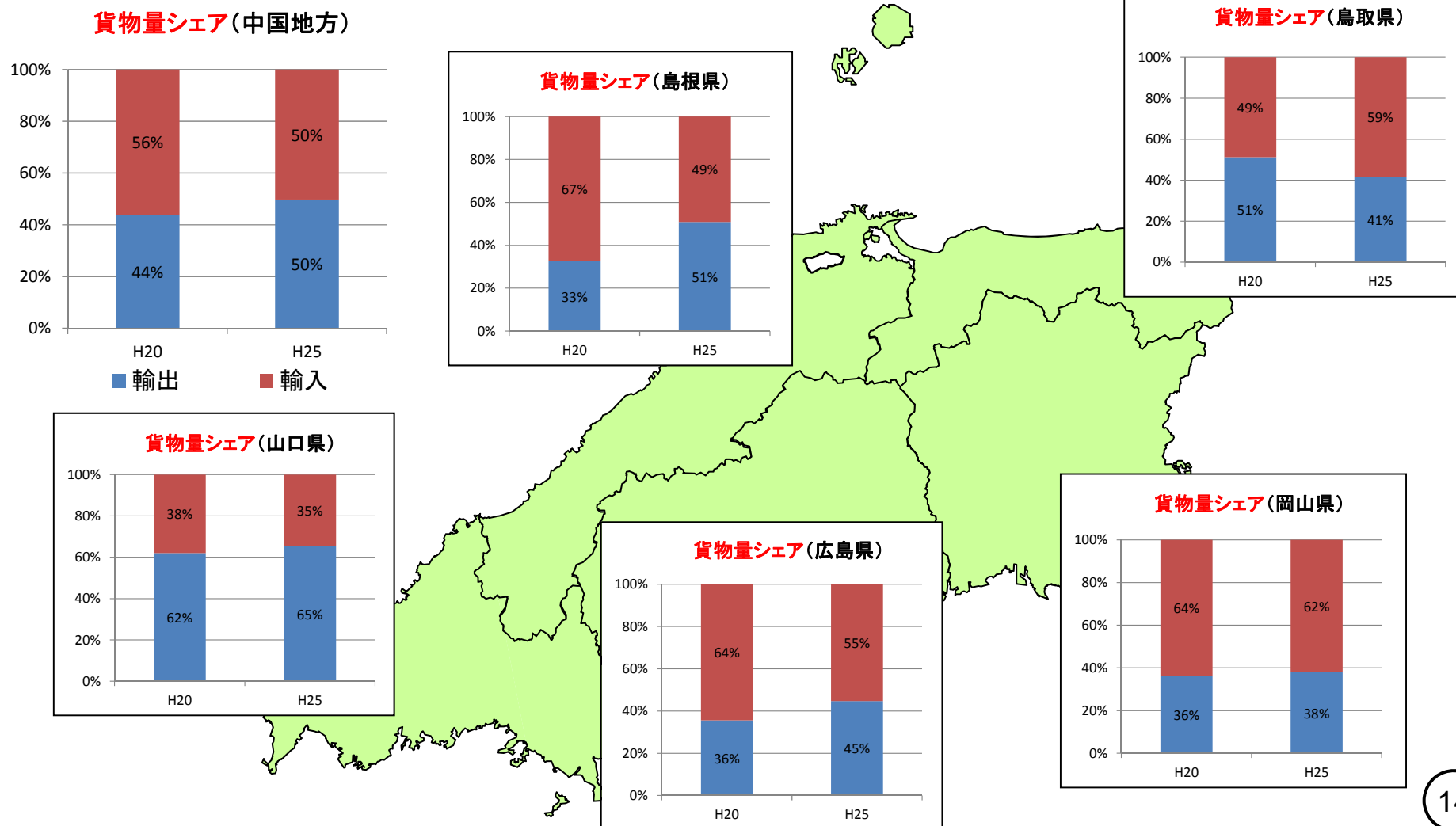


# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## 中国地方における県別の輸出・輸入コンテナ貨物の割合

○中国地方における県別の国際コンテナ貨物量の割合は、鳥取県・岡山県・広島県で輸入が多く、山口県では輸出が多い。島根県においてはほぼ均等である。

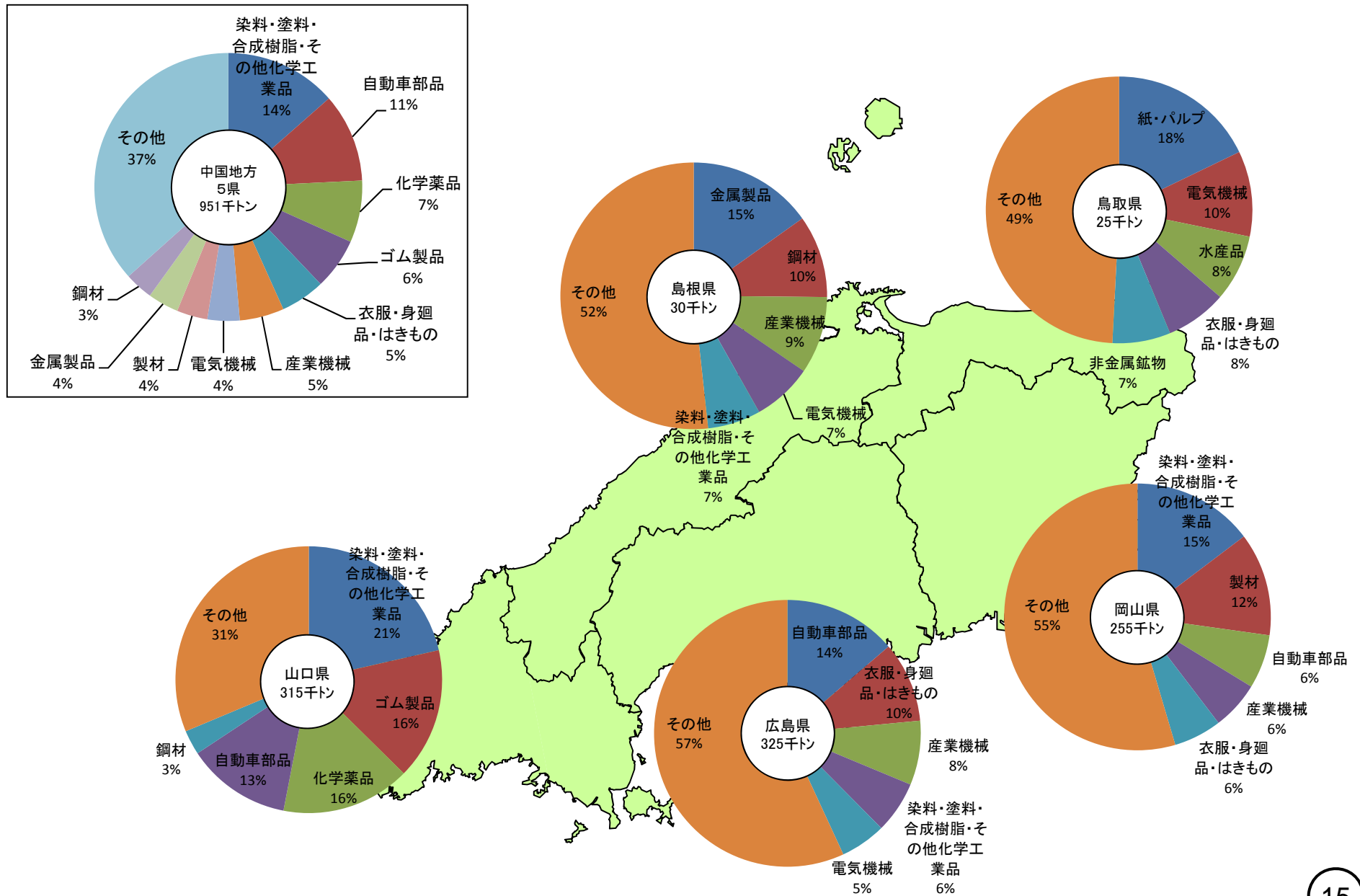
○また、前回(平成20年11月)と比べて、鳥取県で輸入割合が上昇、島根県・広島県の両県で輸出割合が上昇している。岡山県・山口県の両県については大きな変動は見られない。





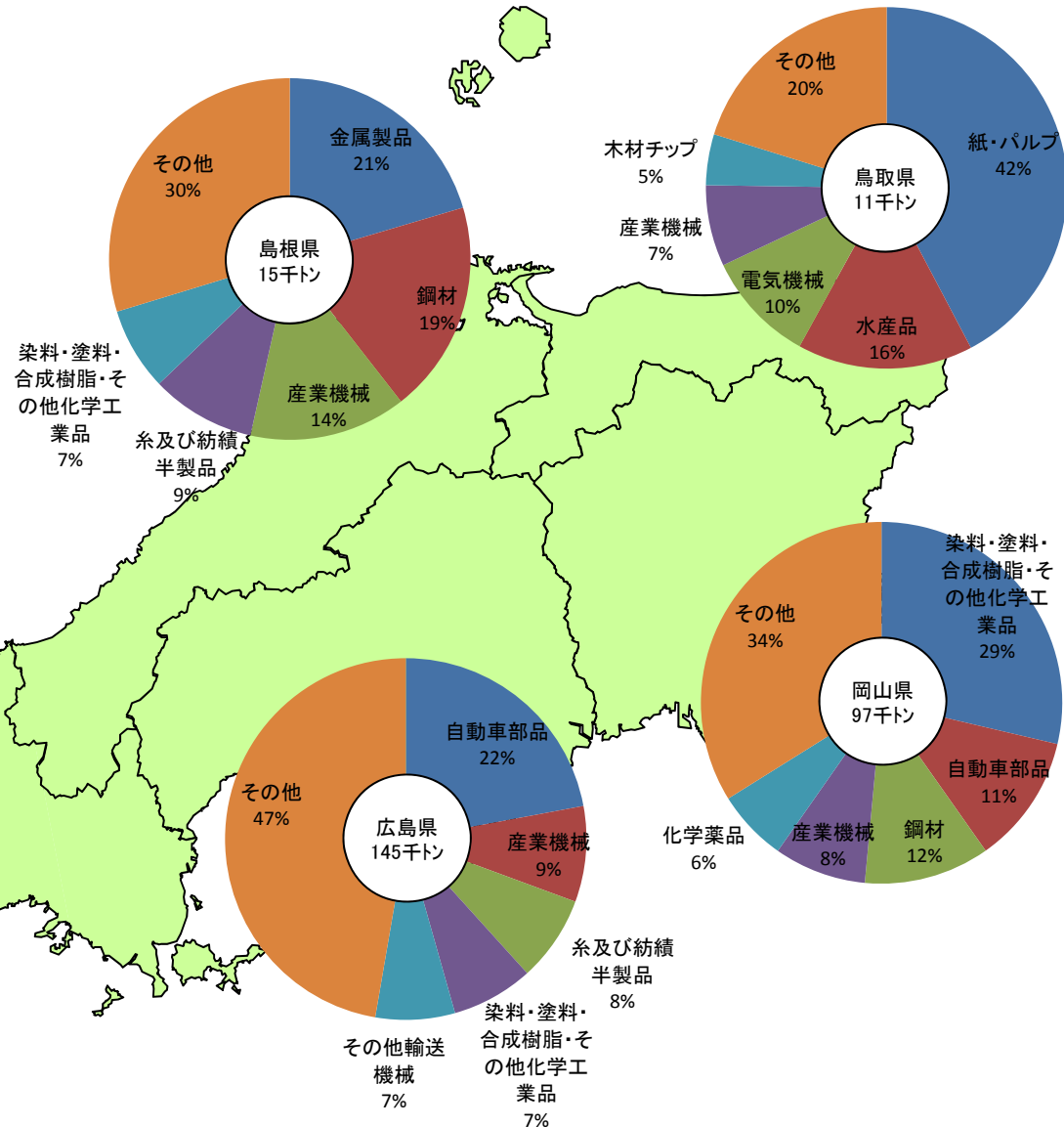
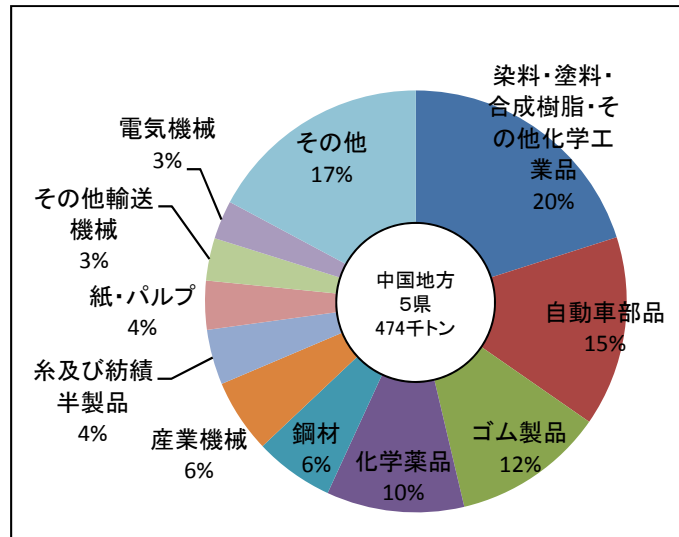
# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## 中国地方における県別の輸出・輸入コンテナ貨物の取扱品目 —平成25年調査—



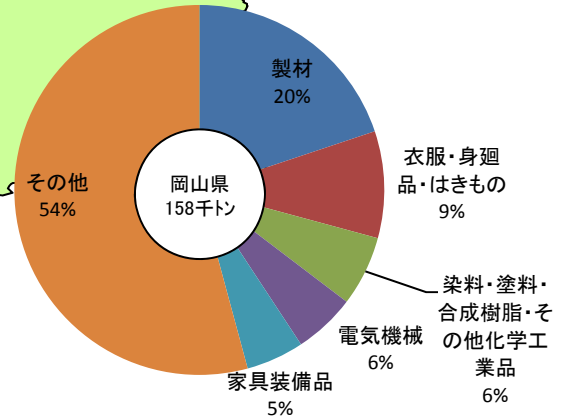
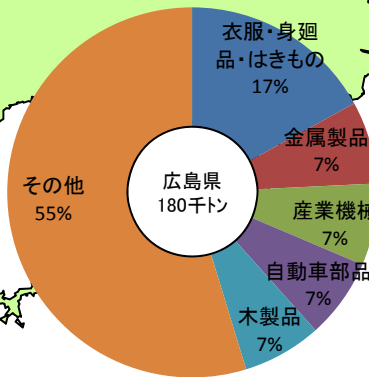
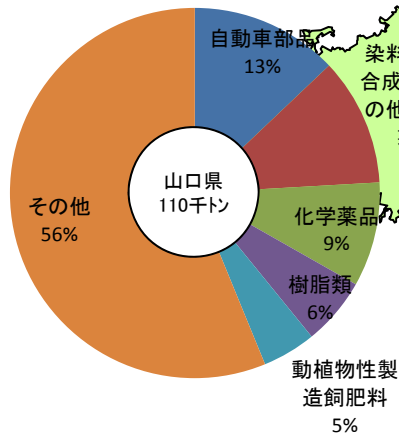
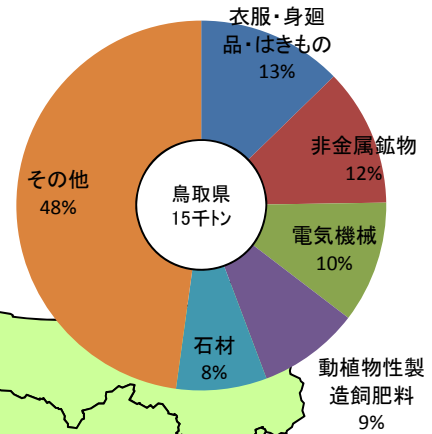
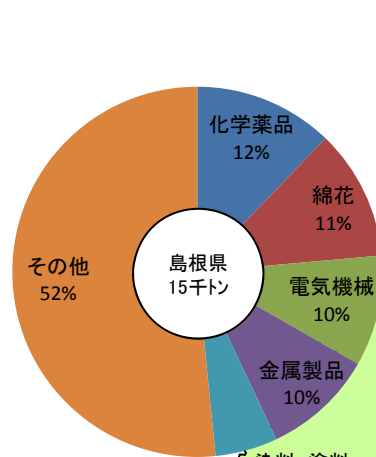
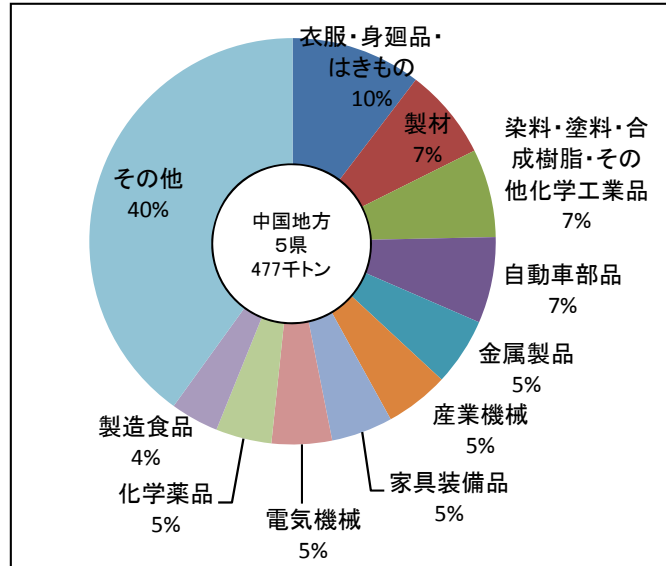
# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## 中国地方における県別の輸出コンテナ貨物の取扱品目 —平成25年調査—



# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

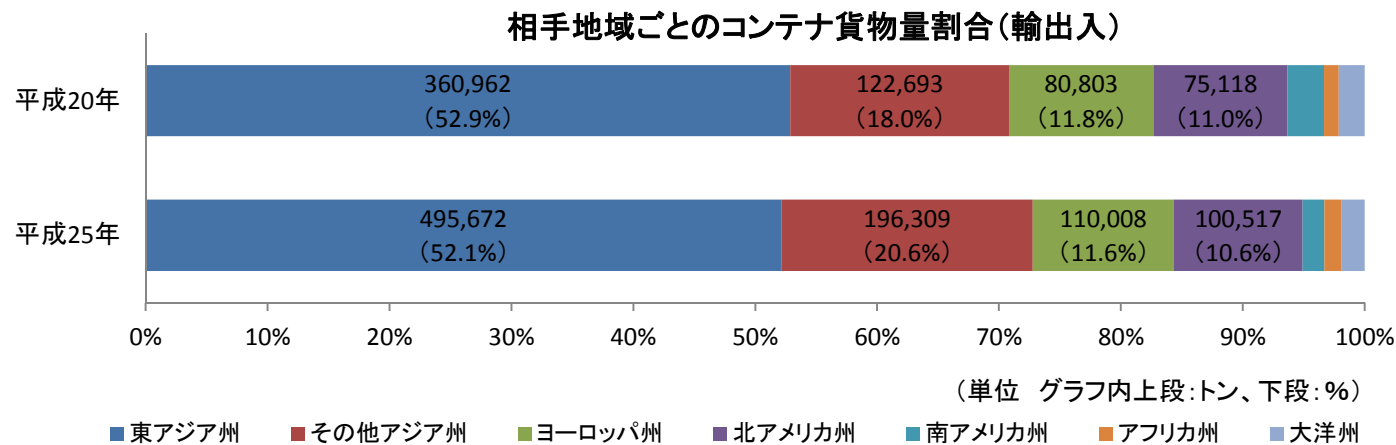
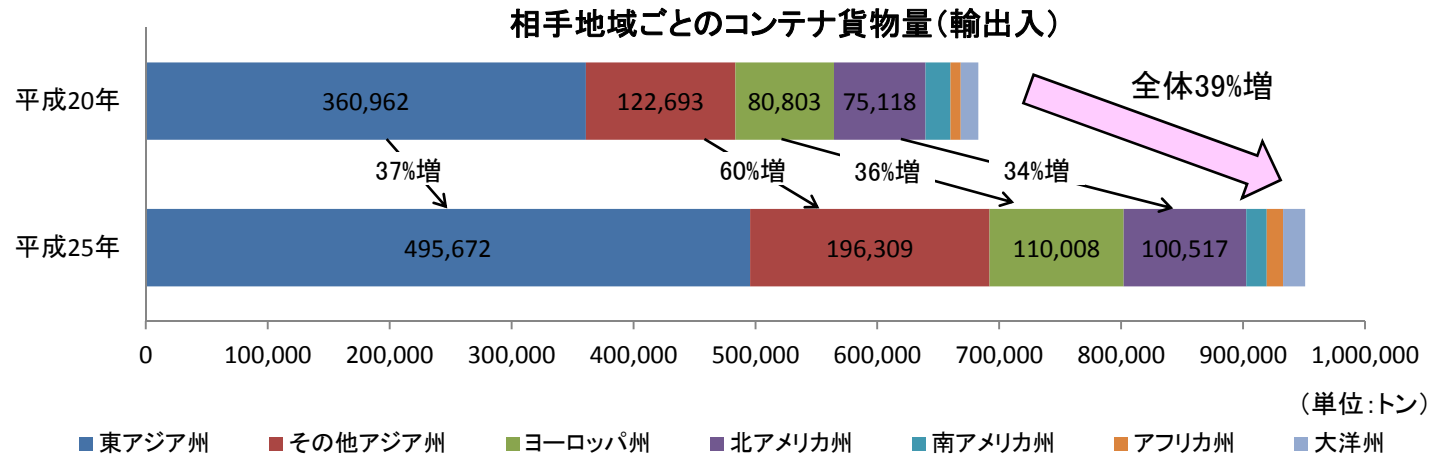
## 中国地方における県別の輸入コンテナ貨物の取扱品目 —平成25年調査—



# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

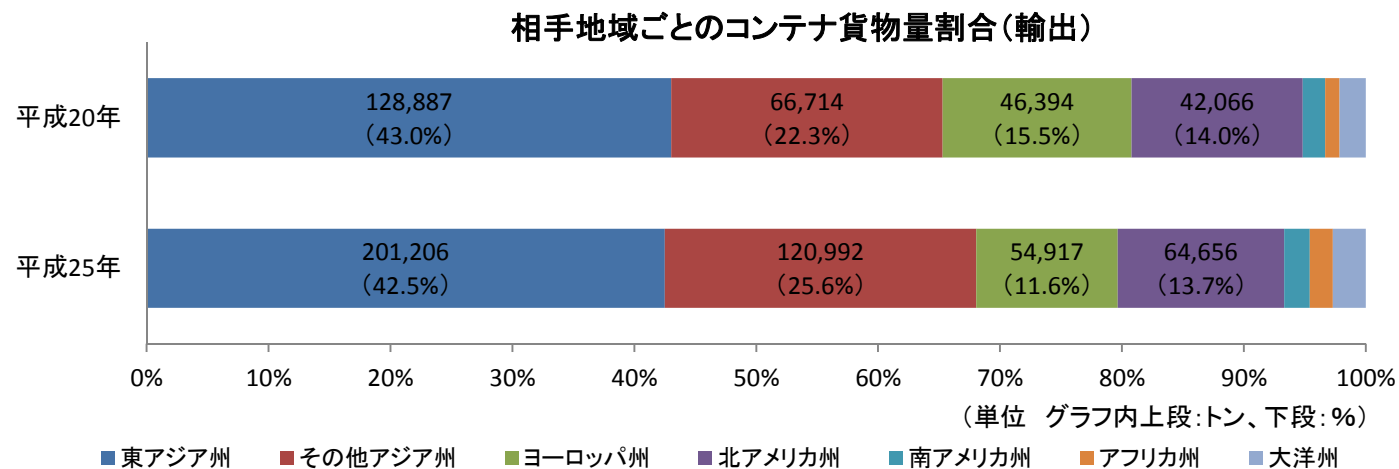
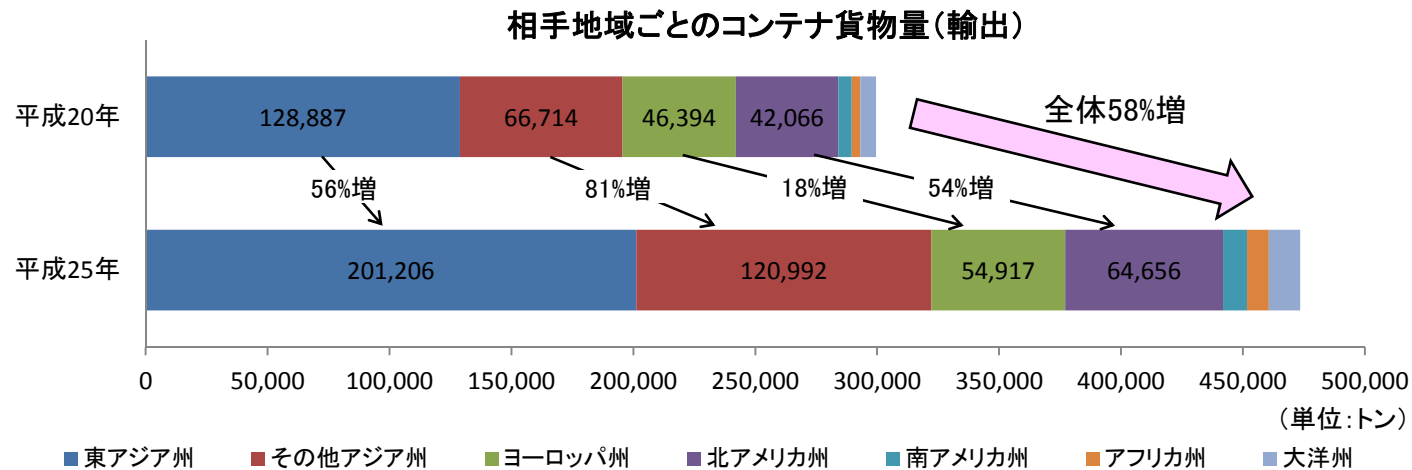
## コンテナ貨物をやりとりする相手地域（輸出・輸入）

- 地域別に見ると、東アジア州、その他アジア州、ヨーロッパ州、北アメリカ州の順に貨物量が多い。
- コンテナ貨物量は前回調査(平成20年)と比較すると、東アジア州は37%増、その他アジア州は60%増、ヨーロッパ州は36%増、北アメリカ州は34%増。
- 相手地域の割合は、東アジア州約52%、その他アジア州約21%、ヨーロッパ州約12%、北アメリカ州約11%である。前回調査と比較すると、その他アジア州が約3ポイント上昇している。



# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】 コンテナ貨物をやりとりする相手地域（輸出）

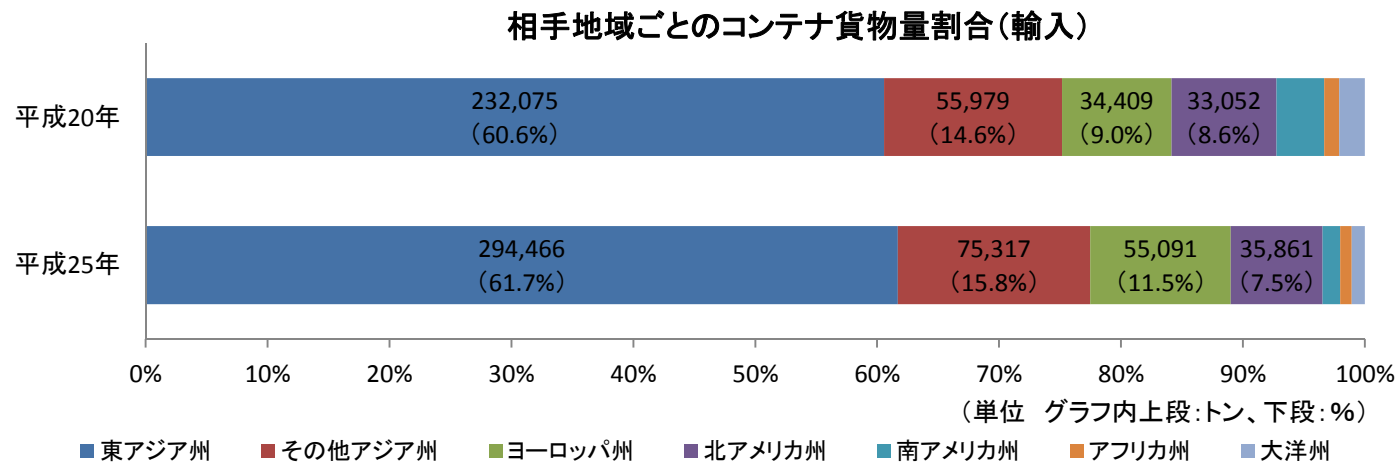
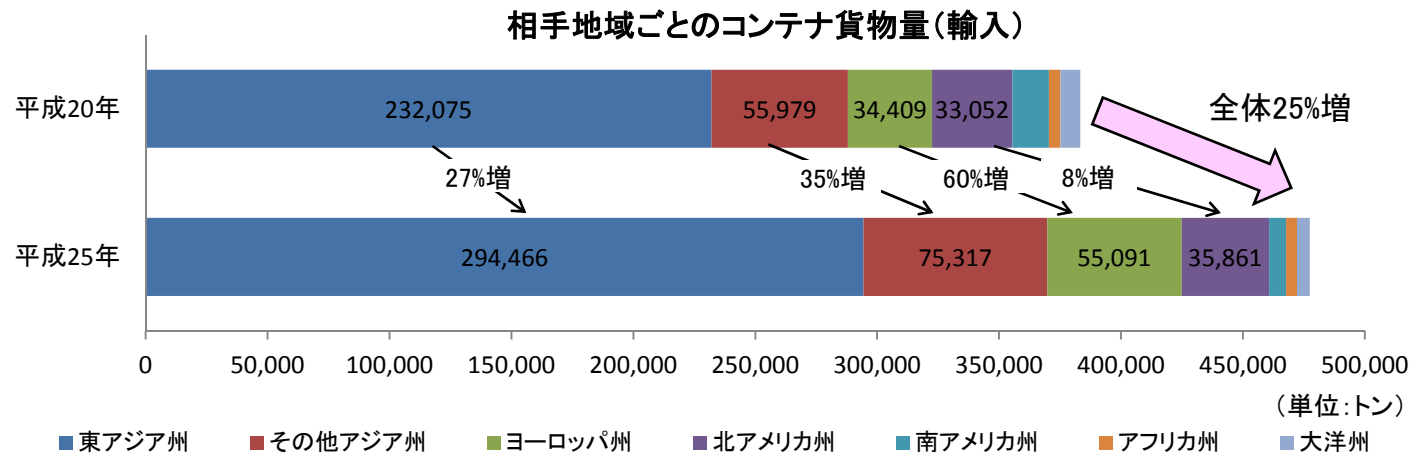
- 地域別に見ると、東アジア州、その他アジア州、北アメリカ州、ヨーロッパ州の順に貨物量が多い。
- コンテナ貨物量は前回調査(平成20年)と比較すると、東アジア州は56%増、その他アジア州は81%増、北アメリカ州は54%増、ヨーロッパ州は18%増。
- 相手地域の割合は、東アジア州約42%、その他アジア州約26%、北アメリカ州約14%、ヨーロッパ州約12%である。前回調査と比較すると、その他アジア州が約3ポイント上昇、ヨーロッパ州が約4ポイント減少している。



# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## コンテナ貨物をやりとりする相手地域（輸入）

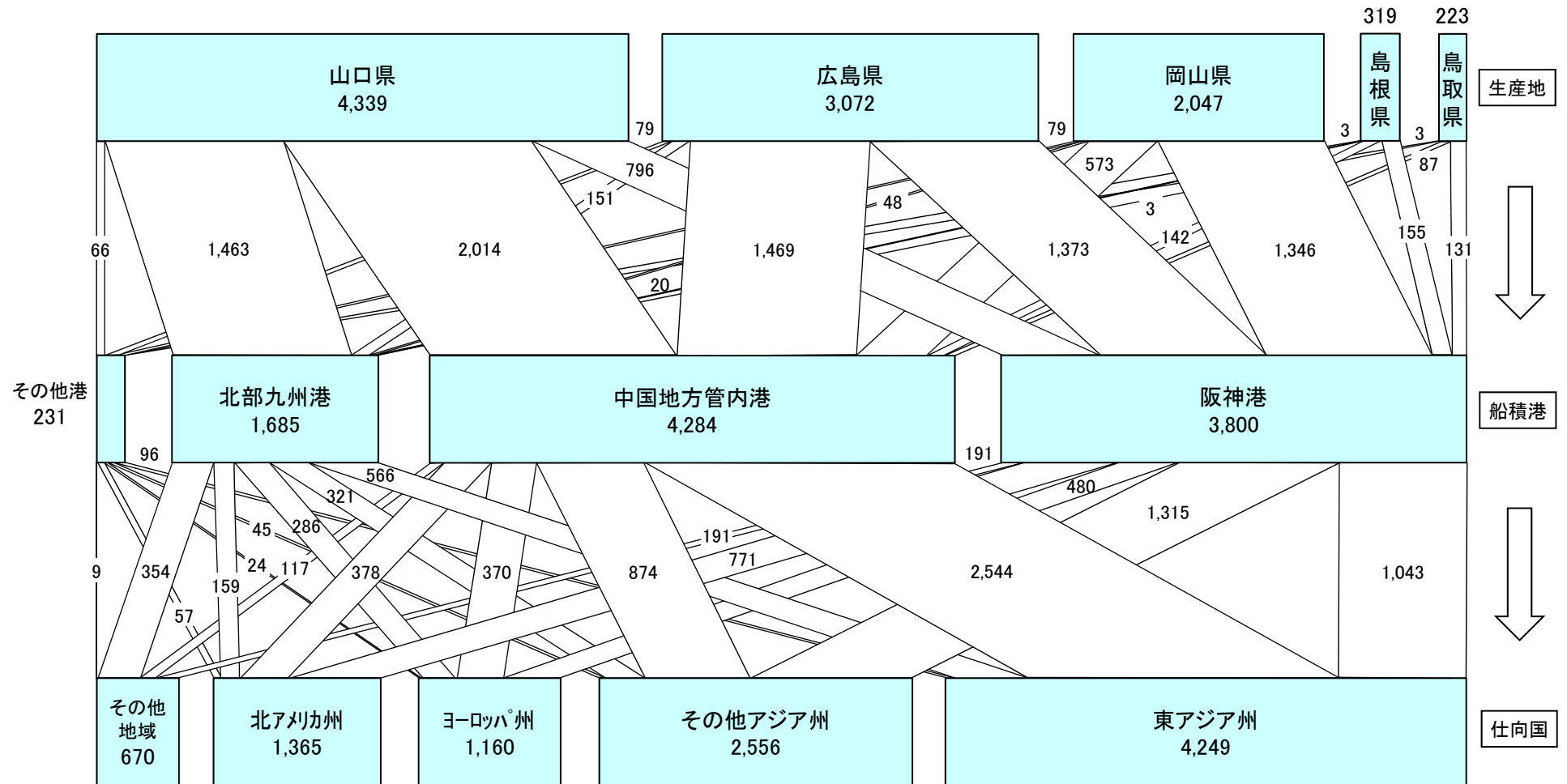
- 地域別に見ると、東アジア州、その他アジア州、ヨーロッパ州、北アメリカ州の順に貨物量が多い。
- コンテナ貨物量は前回調査(平成20年)と比較すると、東アジア州は27%増、その他アジア州は35%増、ヨーロッパ州は60%増、北アメリカ州は8%増。
- 相手地域の割合は、東アジア州約62%、その他アジア州約16%、ヨーロッパ州約12%、北アメリカ州約8%である。前回調査と比較すると、その他アジア州が約3ポイント上昇している。



# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## コンテナ貨物の流動状況概略図（輸出） —平成25年調査—

### コンテナ貨物の流動状況(輸出) —(生産地～船積港～仕向国)—



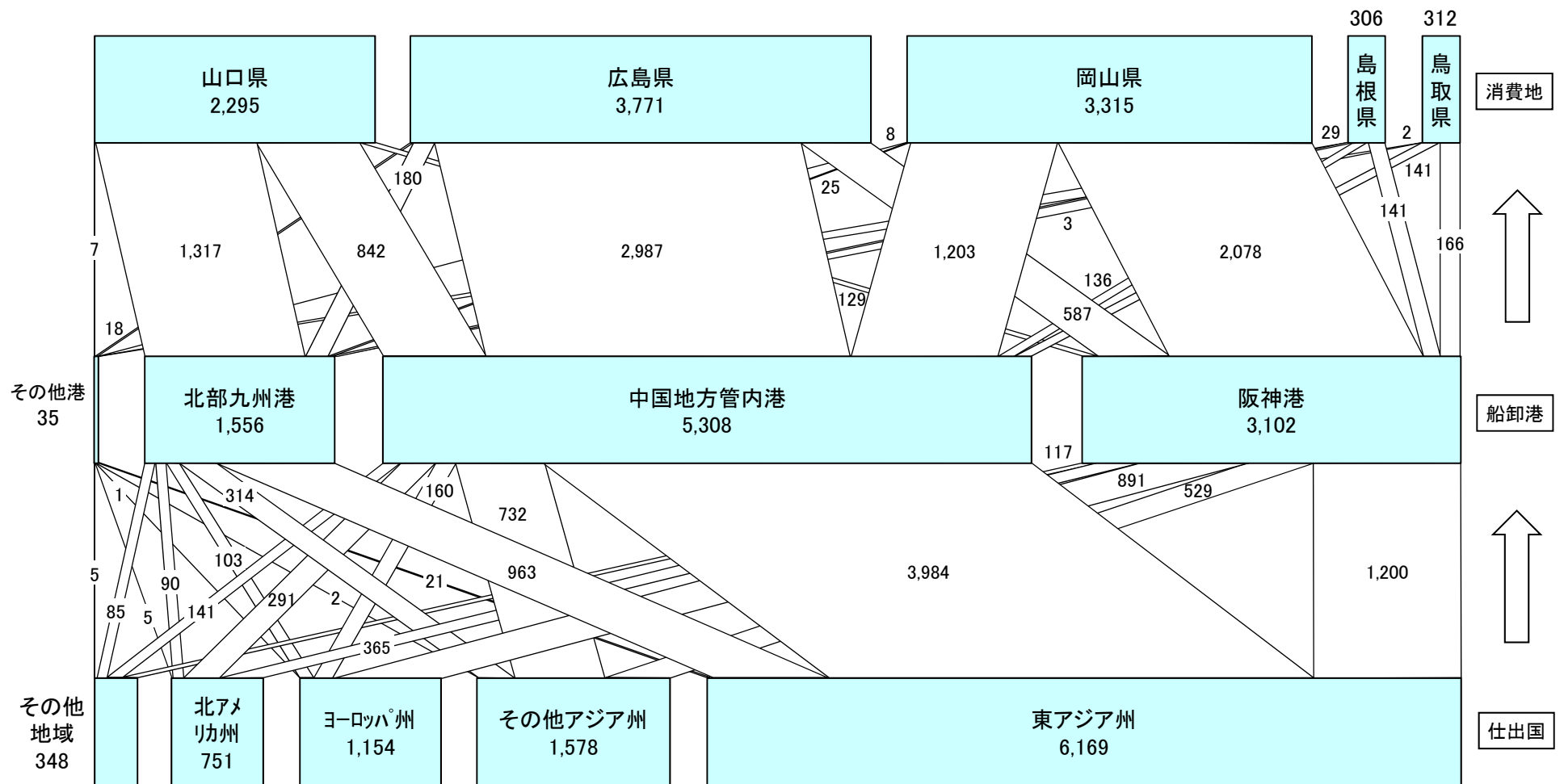
注:コンテナ貨物流動調査期間中に中国地方で生産された473,503トンをもとに10,000とした。

※東アジア州は、韓国、中国、台湾、香港、マカオの合計。  
その他地域には南アメリカ州、アフリカ州、大洋州が含まれる。

# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## コンテナ貨物の流動状況概略図（輸入） —平成25年調査—

### コンテナ貨物の流動状況(輸入)－(仕出国～船卸港～消費地)－



注:コンテナ貨物流動調査期間中に中国地方で消費された477,346トンをも10,000とした。

※東アジア州は、韓国、中国、台湾、香港の合計。  
 その他地域には南アメリカ州、アフリカ州、大洋州が含まれる。

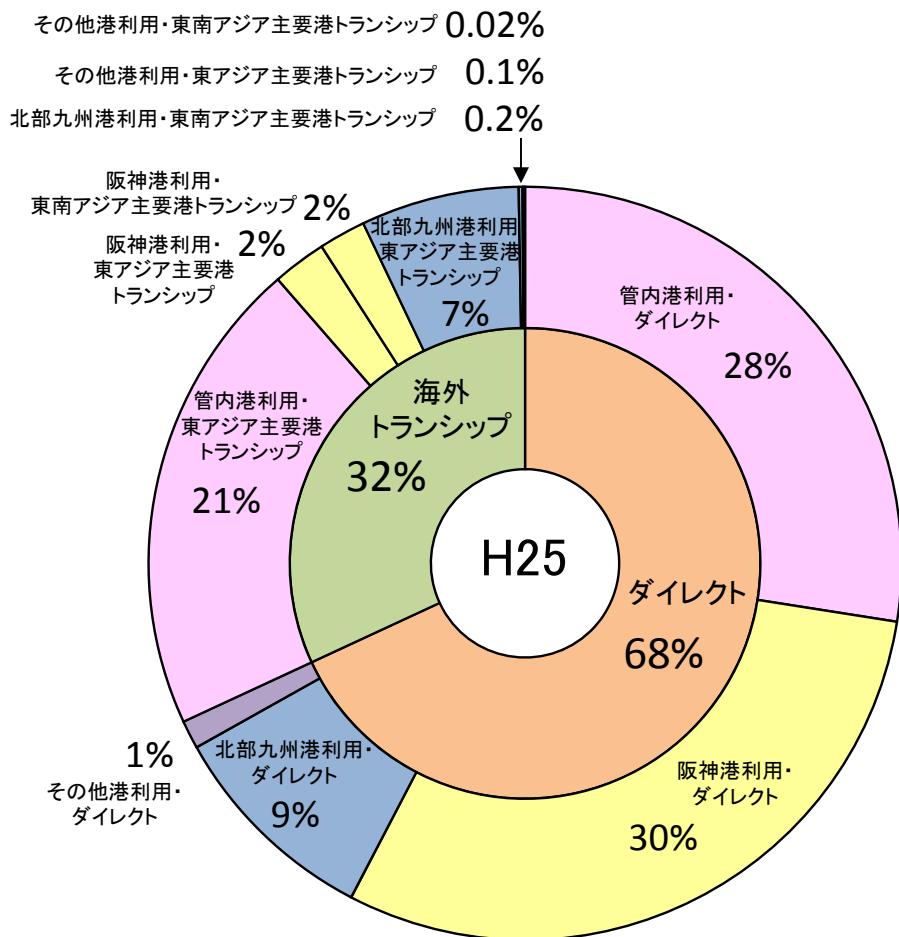


# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

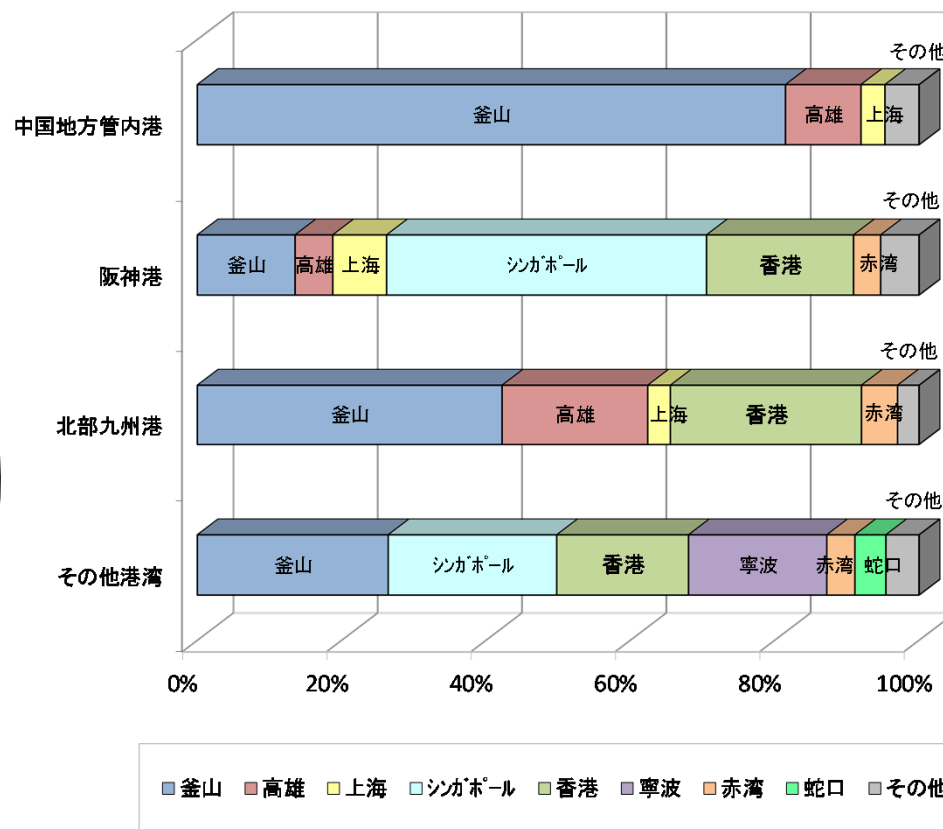
## 世界との貿易における輸送形態と海外トランシップ港 —平成25年調査—

[全世界]

- 中国地方発着の国際コンテナ貨物の世界との貿易における輸送形態は、ダイレクト輸送が68%、海外トランシップ輸送が32%。
- 阪神港利用・ダイレクト輸送(30%)、中国地方管内港利用・ダイレクト輸送(28%)、中国地方管内港利用・東アジア主要港トランシップ輸送(21%)の順に割合が多い。



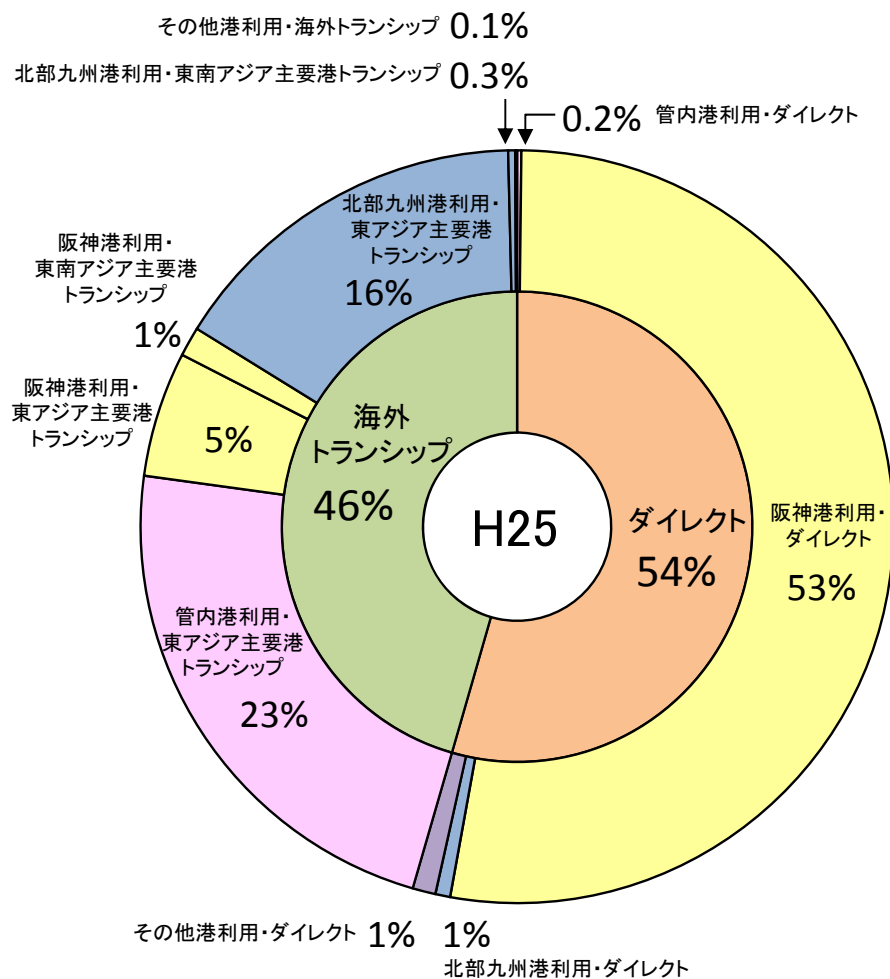
海外トランシップにおける利用港湾別トランシップ港割合(世界)



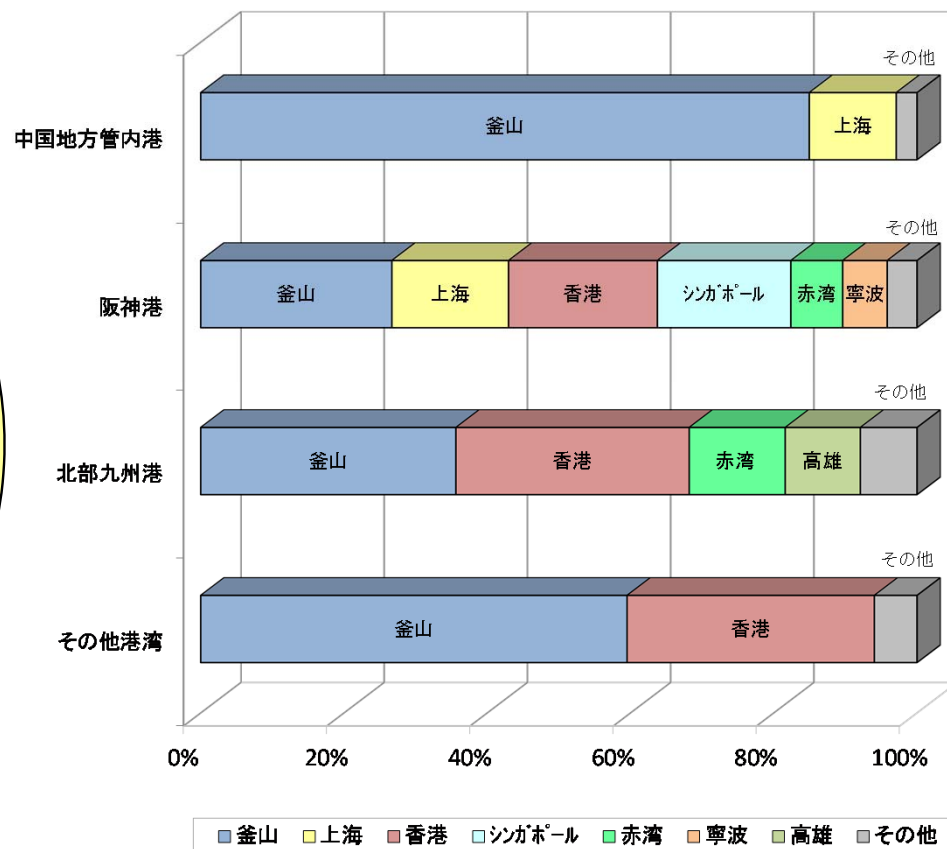
# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## ヨーロッパ州との貿易における輸送形態と海外トランシップ港 —平成25年調査— [ヨーロッパ州]

- 中国地方発着の国際コンテナ貨物のヨーロッパ州との貿易における輸送形態は、**ダイレクト輸送が54%、海外トランシップ輸送が46%**。
- 阪神港利用・ダイレクト輸送(53%)、中国地方管内港利用・東アジア主要港トランシップ輸送(23%)、北部九州港利用・東アジア主要港トランシップ輸送(16%)**の順に割合が多い。



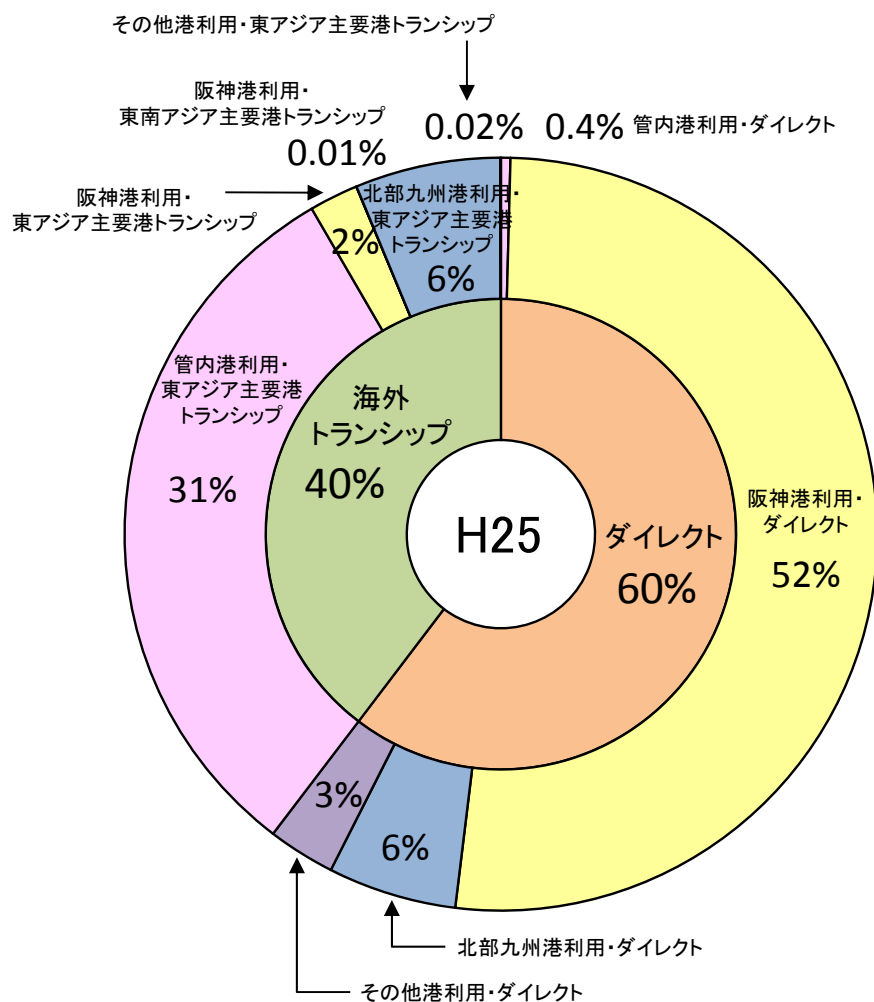
海外トランシップにおける利用港湾別トランシップ港割合(ヨーロッパ州)



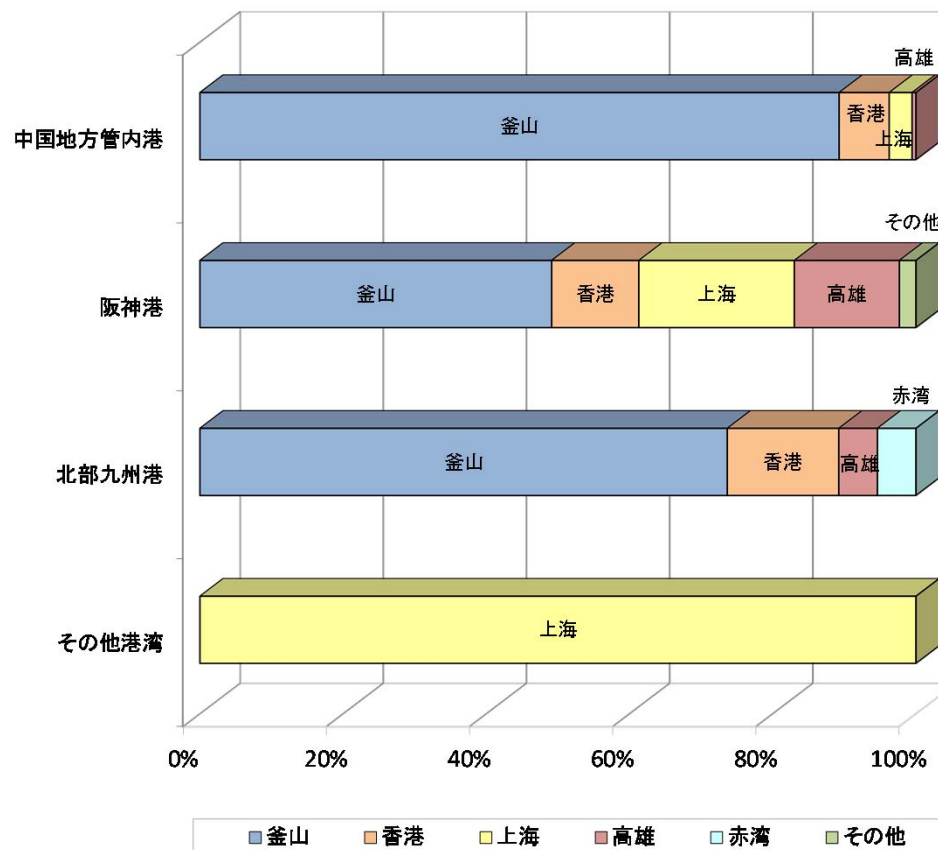
# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## 北アメリカ州との貿易における輸送形態と海外トランシップ港 —平成25年調査— [北アメリカ州]

- 中国地方発着の国際コンテナ貨物の北アメリカ州との貿易における輸送形態は、**ダイレクト輸送が60%、海外トランシップ輸送が40%**。
- 阪神港利用・ダイレクト輸送(52%)**、**中国地方管内港利用・東アジア主要港トランシップ輸送(31%)**、**北部九州港利用・東アジア主要港トランシップ輸送(6%)**の順に割合が多い。



海外トランシップにおける利用港湾別トランシップ港割合(北アメリカ州)



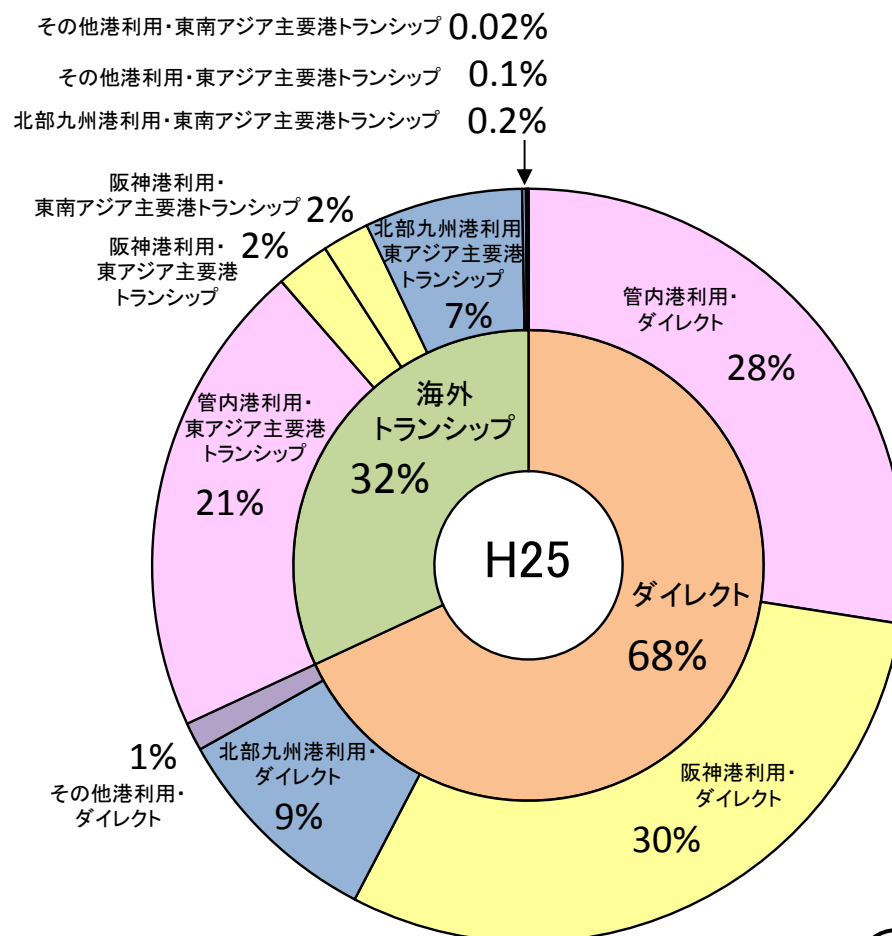
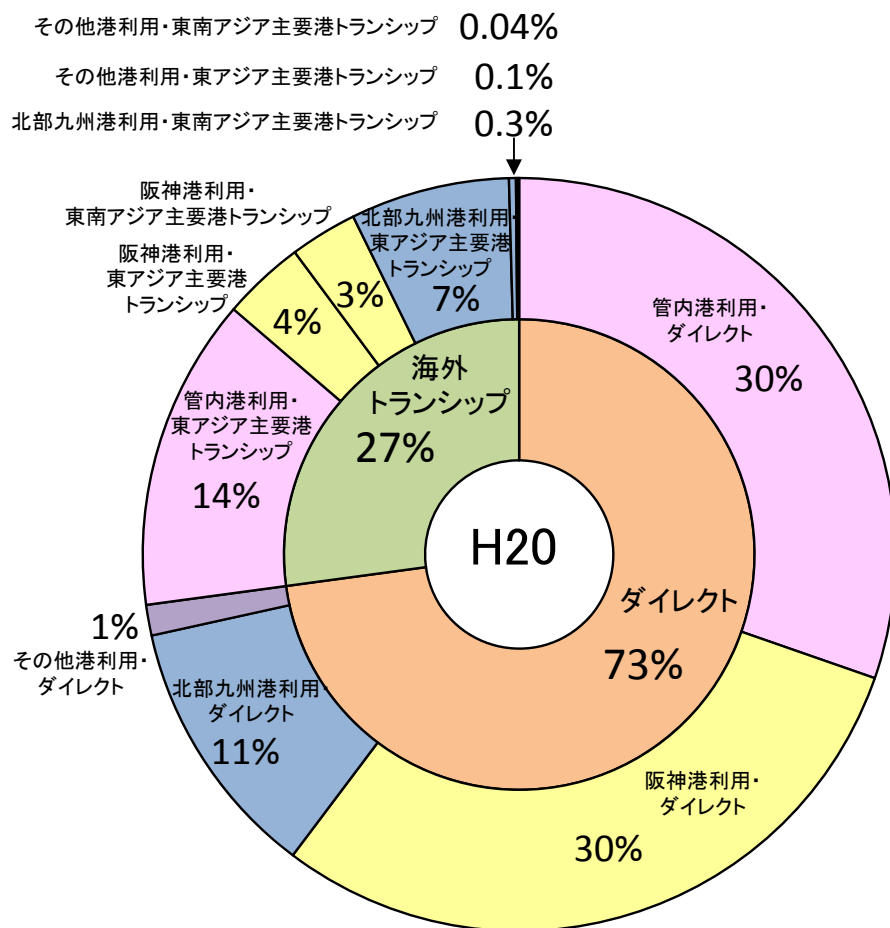
# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## 世界との貿易における輸送形態（ダイレクト輸送と海外トランシップ輸送）

〔全世界〕

○中国地方発着の国際コンテナ貨物の世界との貿易における輸送形態について、前回調査と比較すると、海外トランシップ輸送が前回27%から32%と5ポイント上昇している。

○海外トランシップ輸送の内訳を見ると、中国管内港利用・東アジア主要港トランシップ輸送が前回14%から21%と7ポイント上昇している。



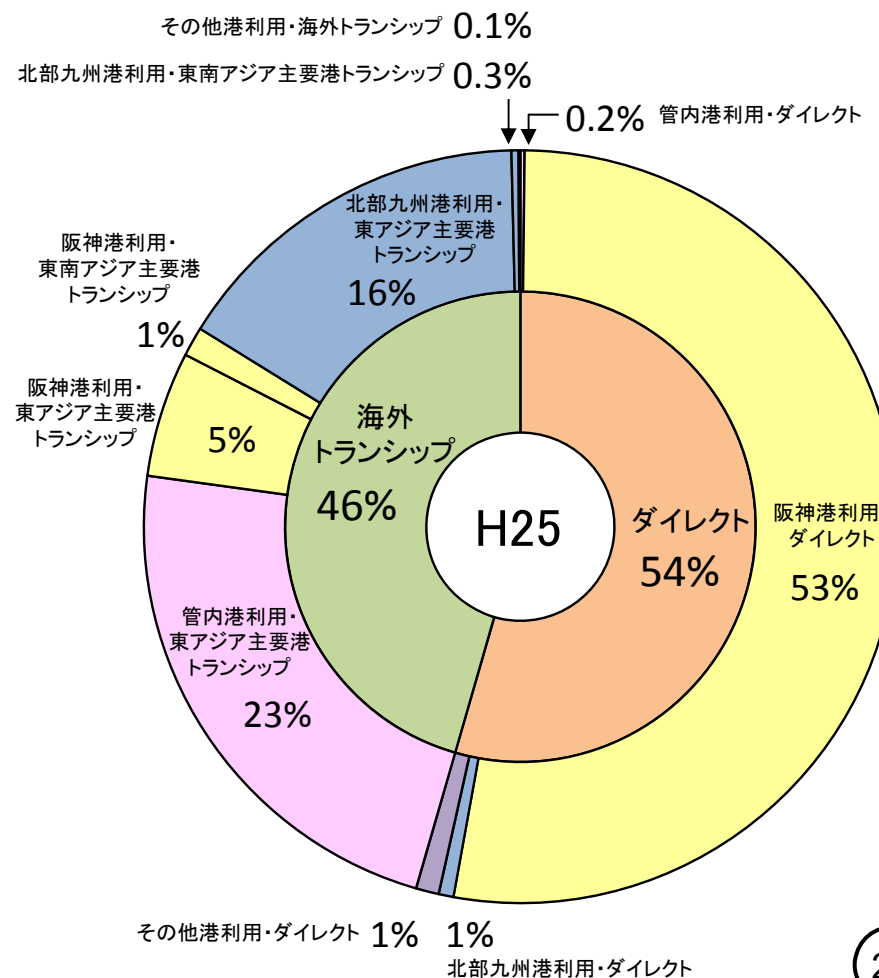
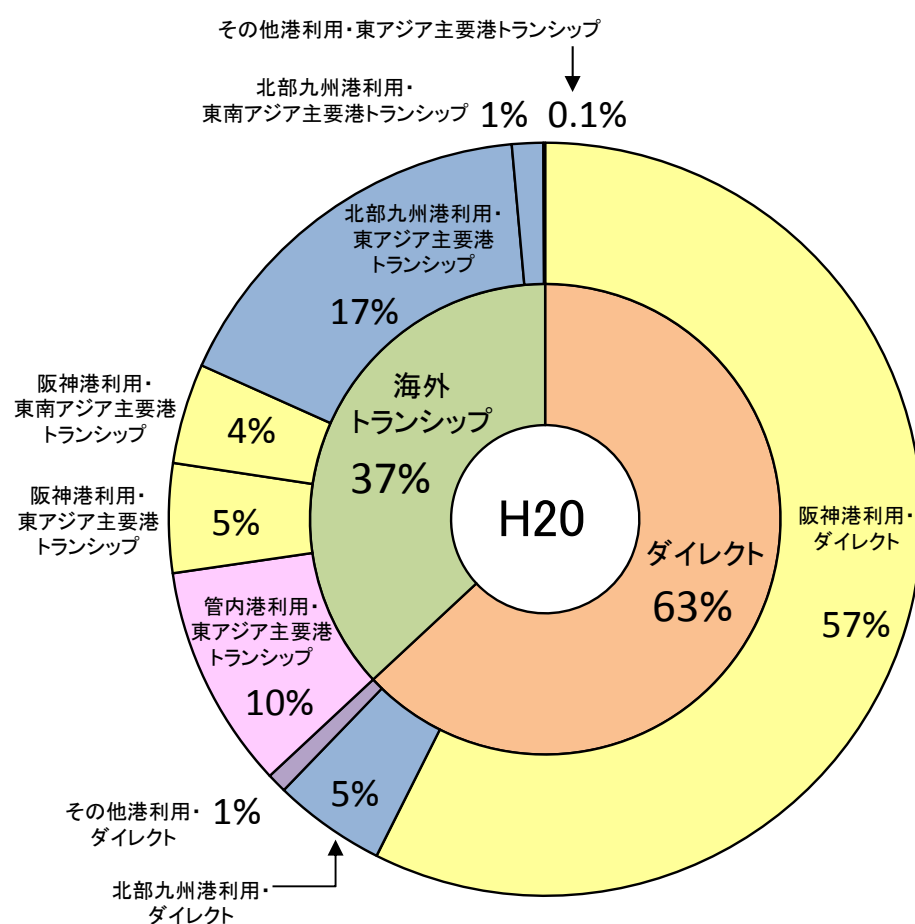
# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## ヨーロッパ州との貿易における輸送形態（ダイレクト輸送と海外トランシップ輸送）

〔ヨーロッパ州〕

○中国地方発着の国際コンテナ貨物のヨーロッパ州との貿易における輸送形態について、前回調査と比較すると、海外トランシップ輸送が前回37%から46%と9ポイント上昇している。

○海外トランシップ輸送の内訳を見ると、中国管内港利用・東アジア主要港トランシップ輸送が前回10%から23%と13ポイント上昇している。

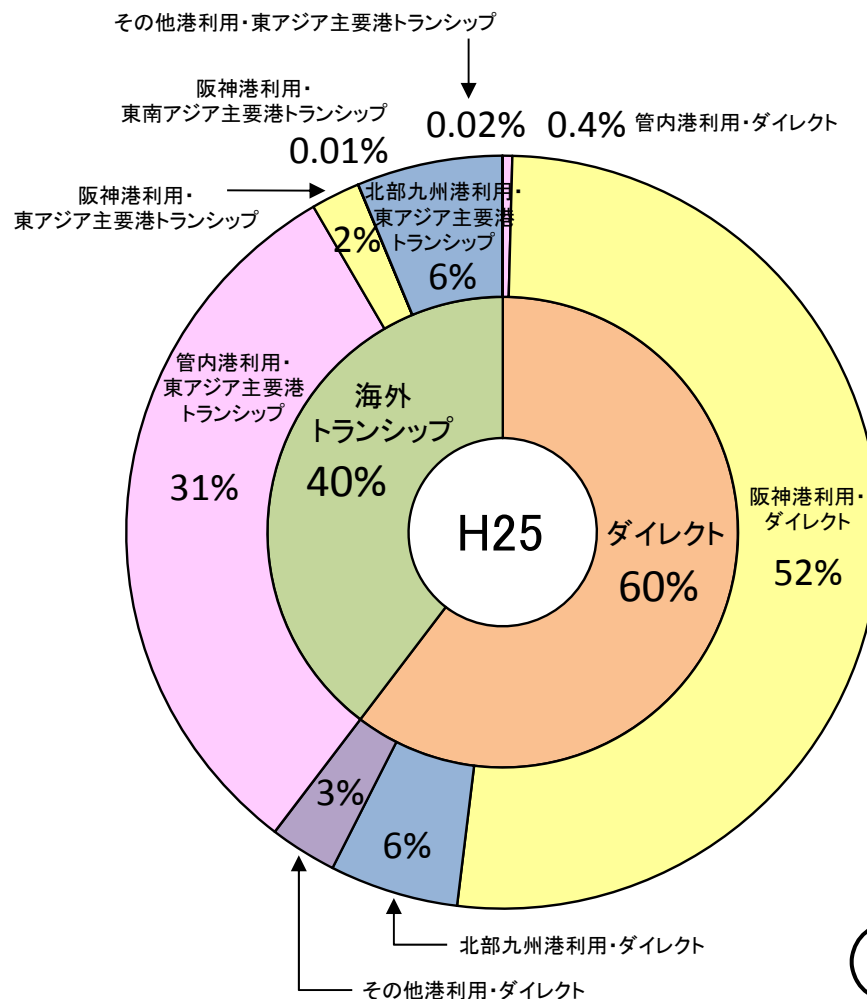
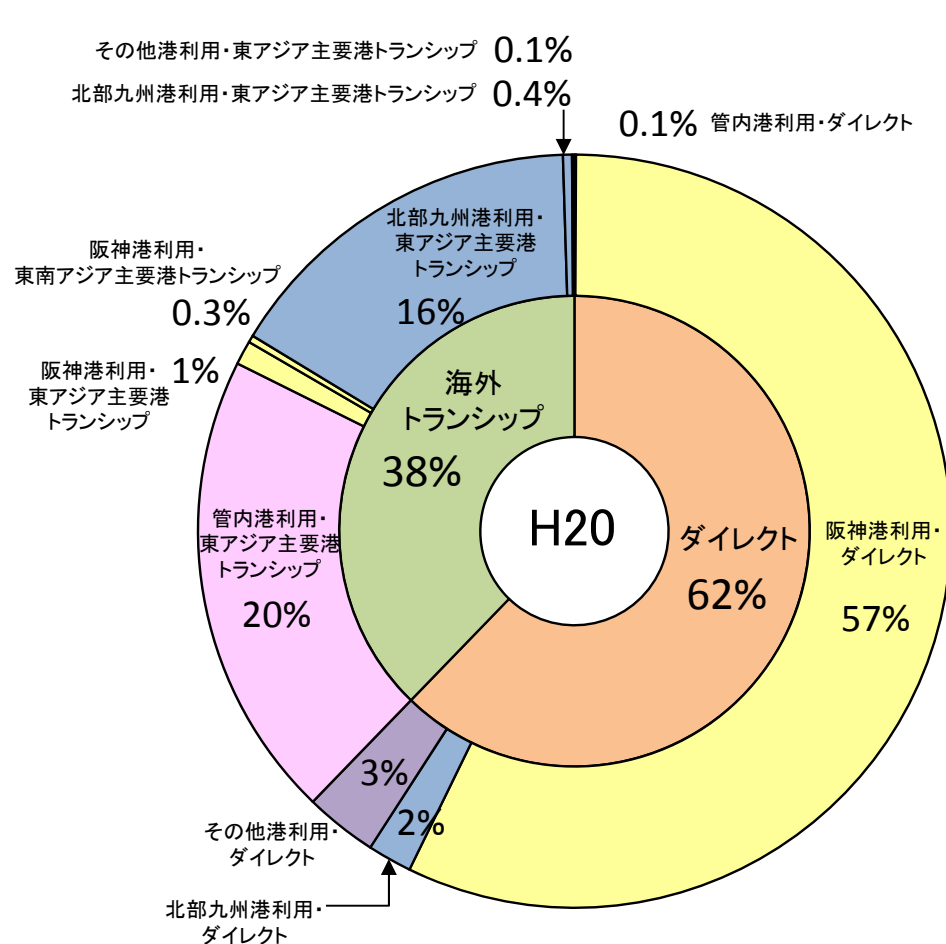


# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## 北アメリカ州との貿易における輸送形態（ダイレクト輸送と海外トランシップ輸送）

〔北アメリカ州〕

- 中国地方発着の国際コンテナ貨物の北アメリカ州との貿易における輸送形態について、前回調査と比較すると、海外トランシップ輸送が前回38%から40%と2ポイント上昇している。
- 海外トランシップ輸送の内訳を見ると、中国管内港利用・東アジア主要港トランシップ輸送が前回20%から31%と11ポイント上昇する一方、北部九州港利用・東アジア主要港トランシップ輸送が前回16%から6%と10ポイント低下している。

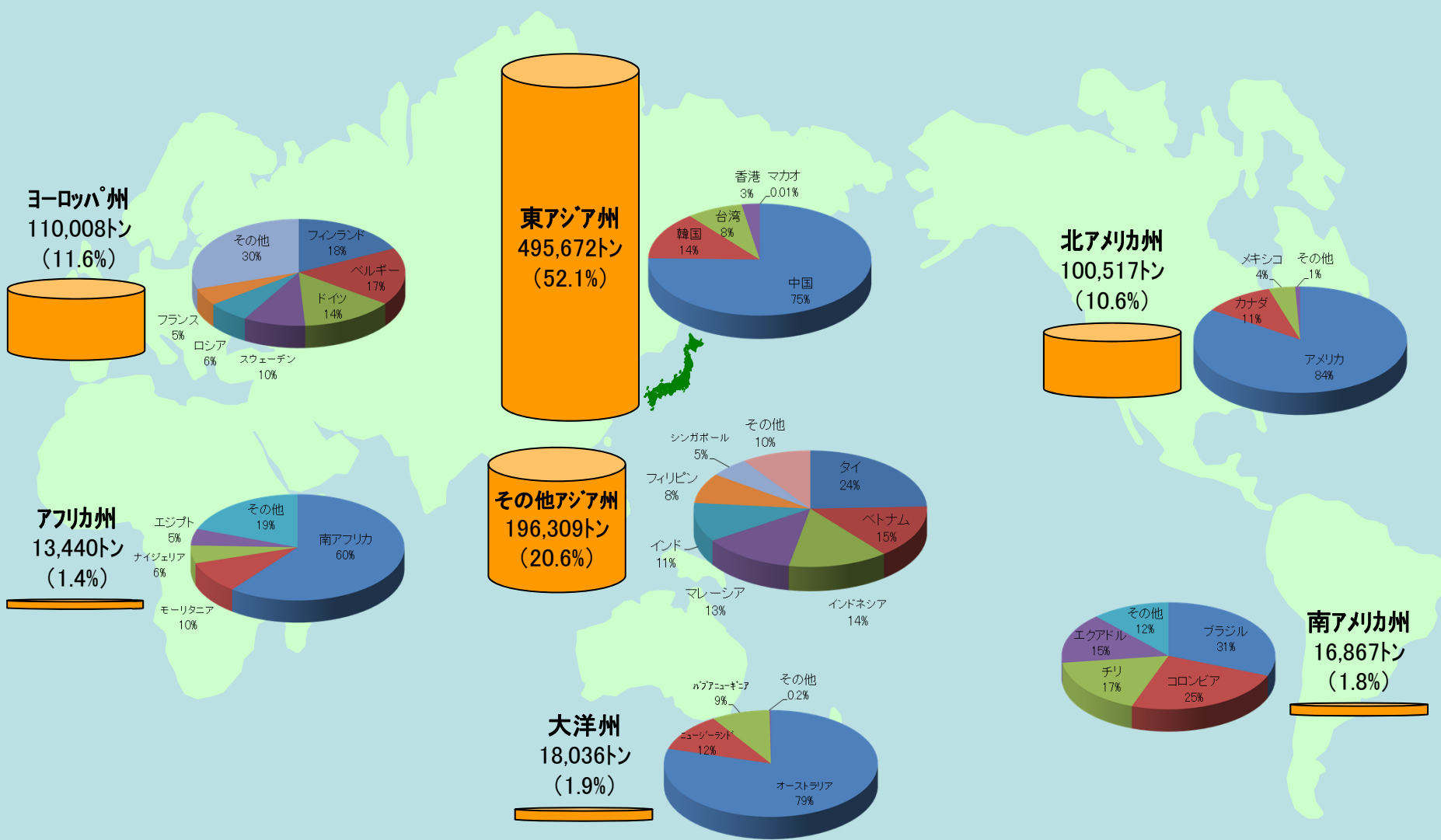


---

# 参 考 资 料

# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

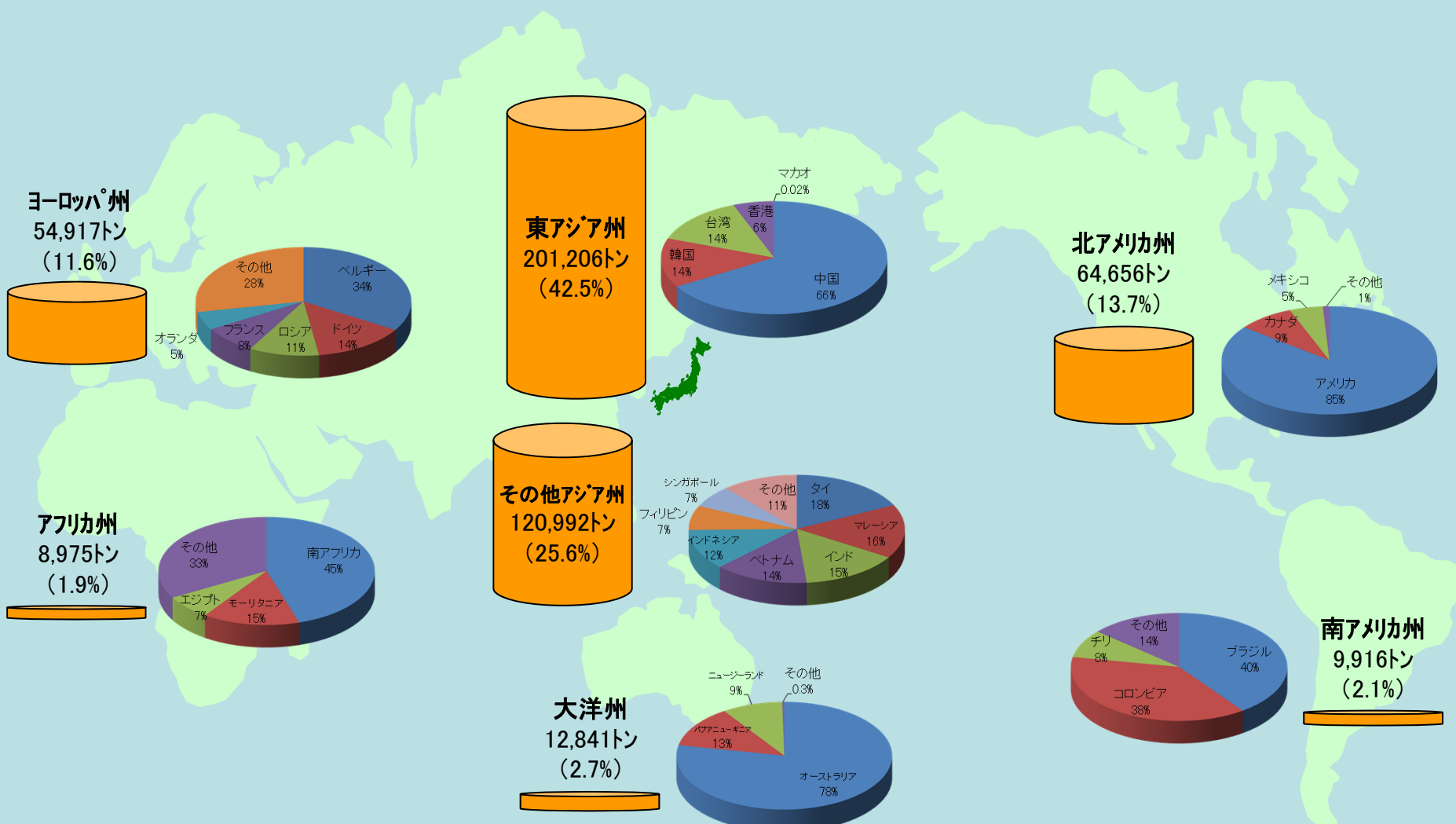
## コンテナ貨物をやりとりする相手地域別コンテナ貨物量（輸出・輸入）－平成25年調査－





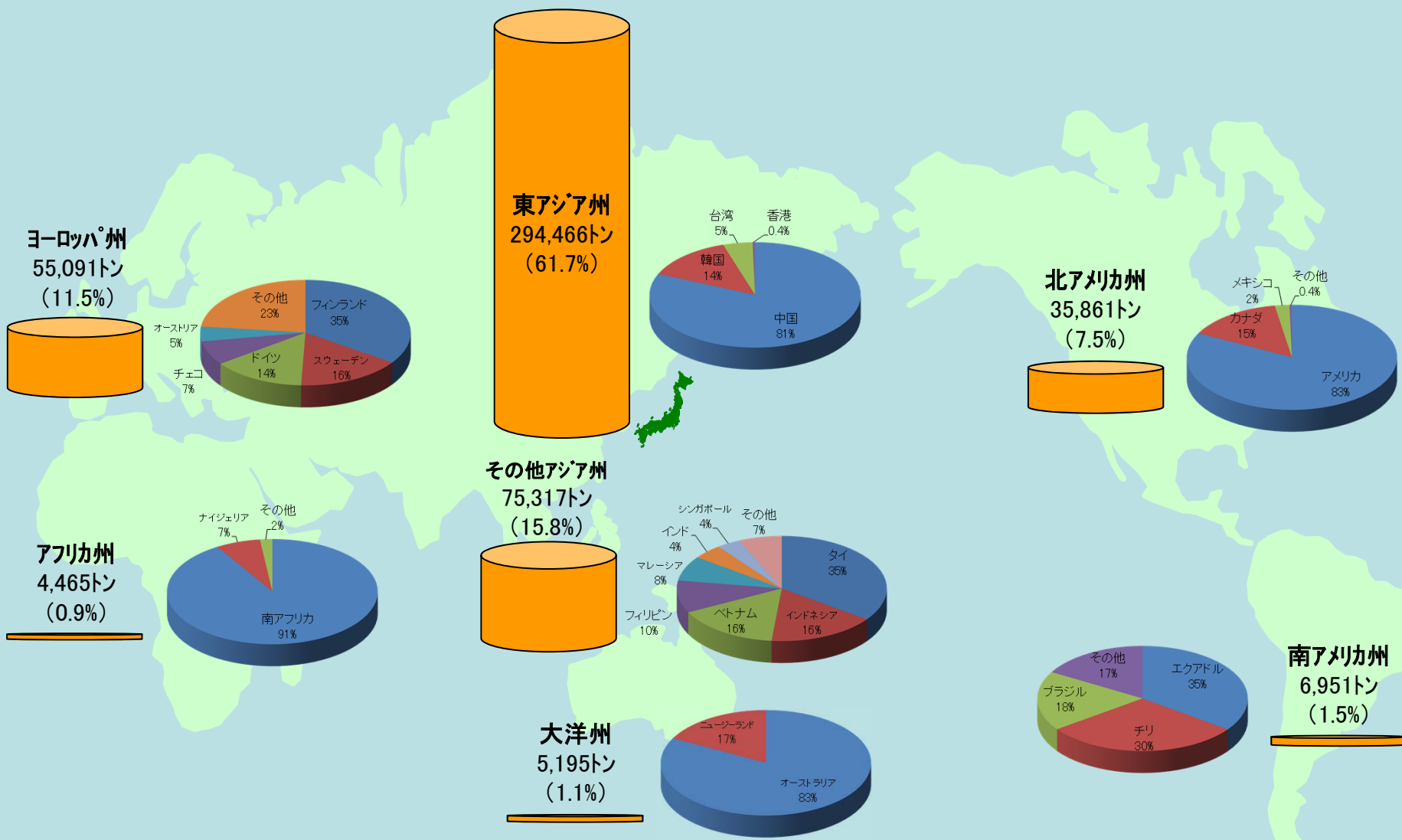
# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## コンテナ貨物をやりとりする相手地域別コンテナ貨物量（輸出） —平成25年調査—



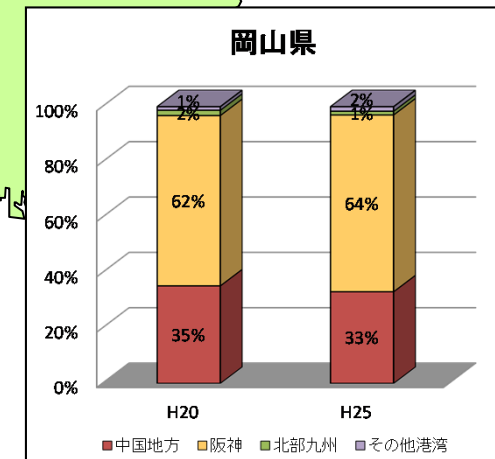
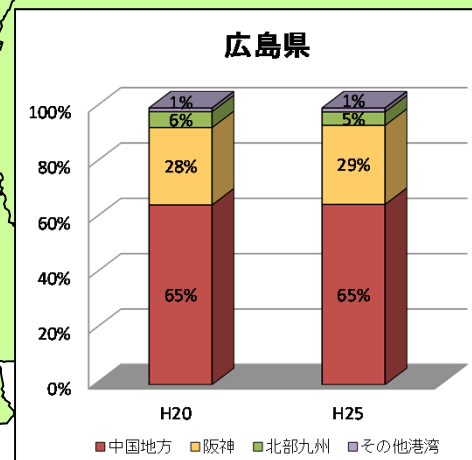
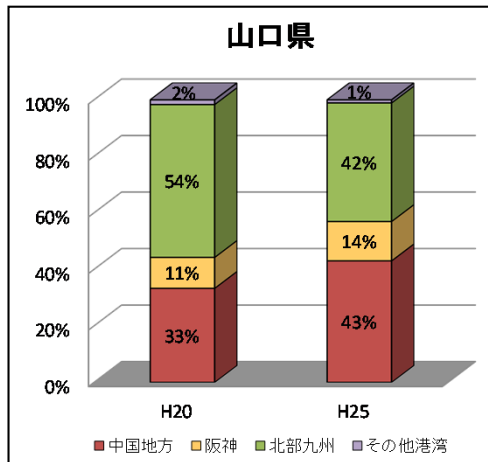
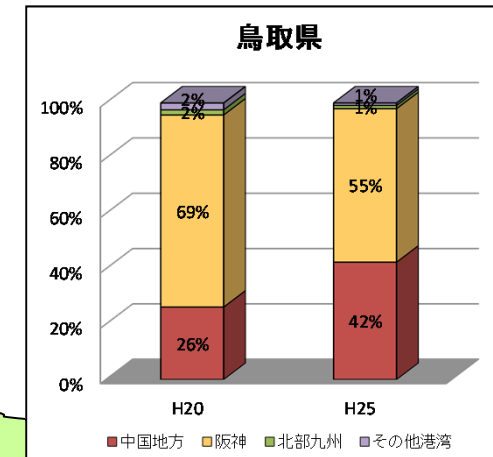
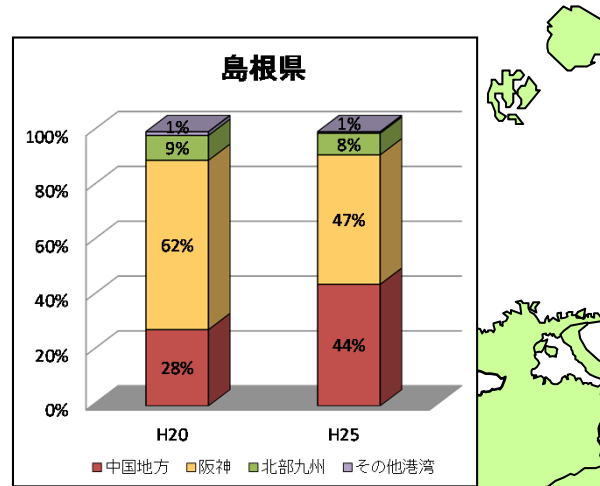
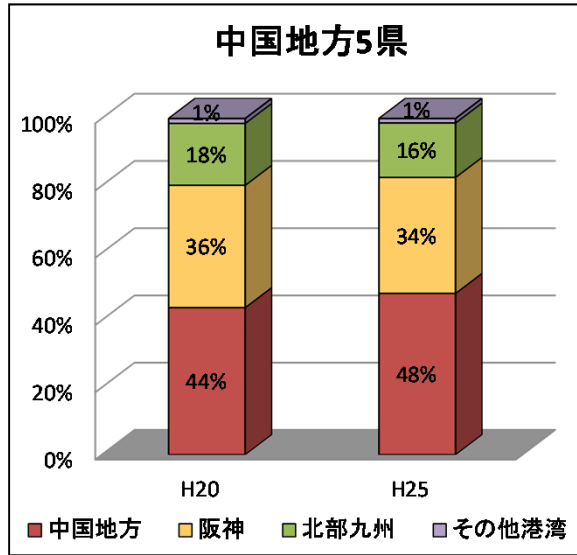
# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## コンテナ貨物をやりとりする相手地域別コンテナ貨物量（輸入） —平成25年調査—



# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## 中国地方における県別のコンテナ貨物輸送の利用港湾（船積・船卸港）の割合

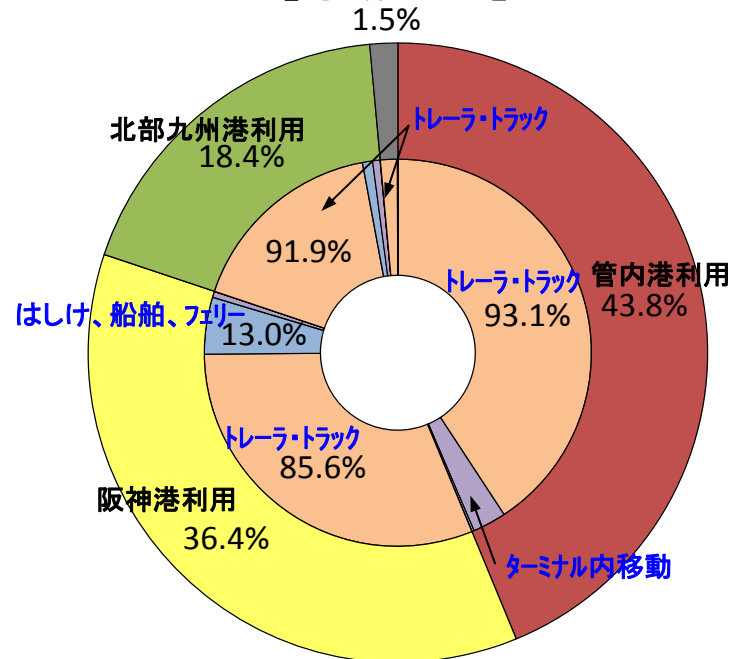


# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

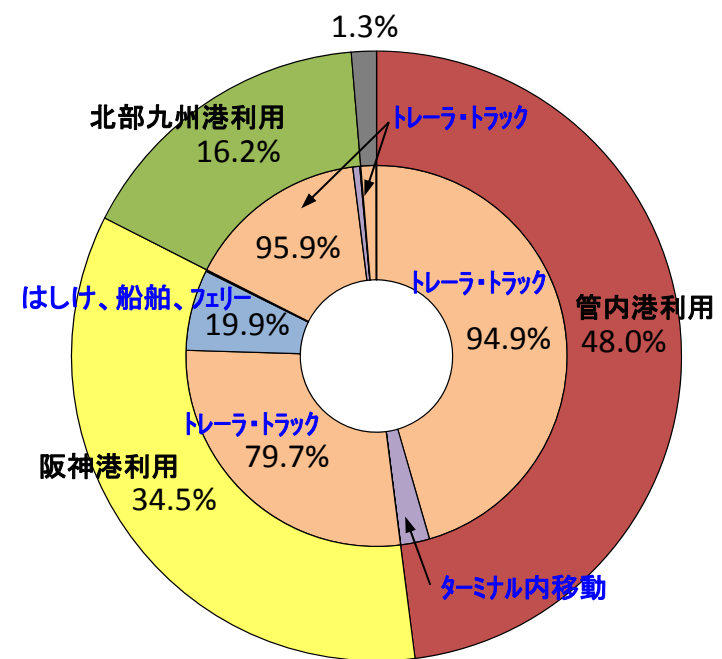
## コンテナ貨物の利用港湾（船積・船卸港）までの国内輸送手段

- 国際コンテナ貨物のコンテナ詰め場所から船積港(船卸港からコンテナ取出場所)までの輸送手段はトレーラ・トラックが中心。
- 阪神港利用における輸送手段に着目すると、「トレーラ・トラック」輸送が前回85.6%から79.7%と約6ポイント低下する一方、「はしけ、船舶、フェリー」輸送が前回13.0%から19.9%と約7ポイント上昇した。

【平成20年】



【平成25年】

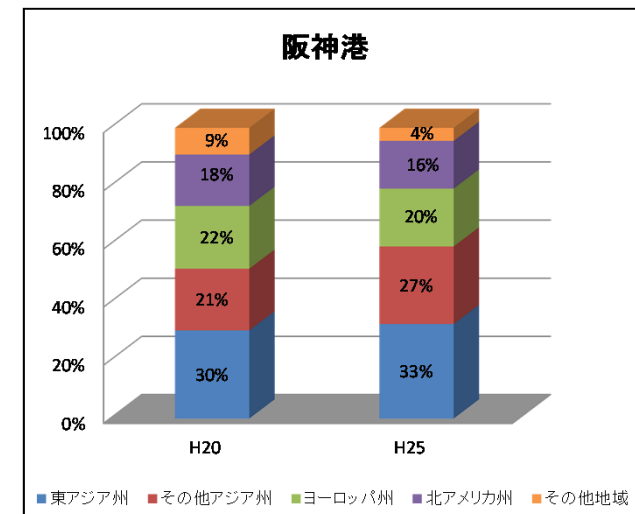
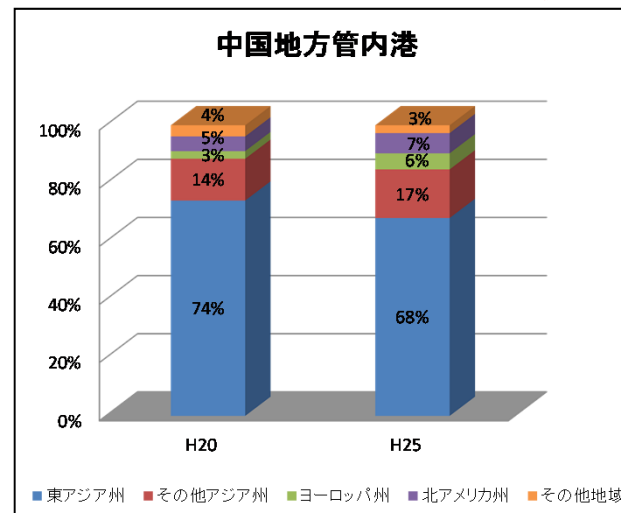
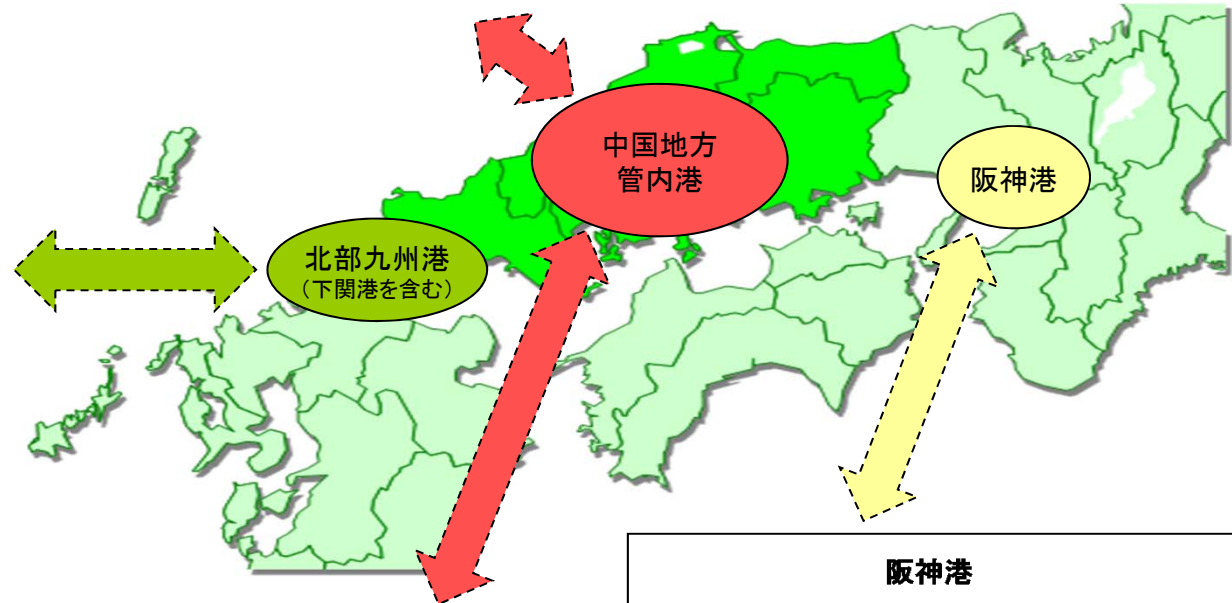
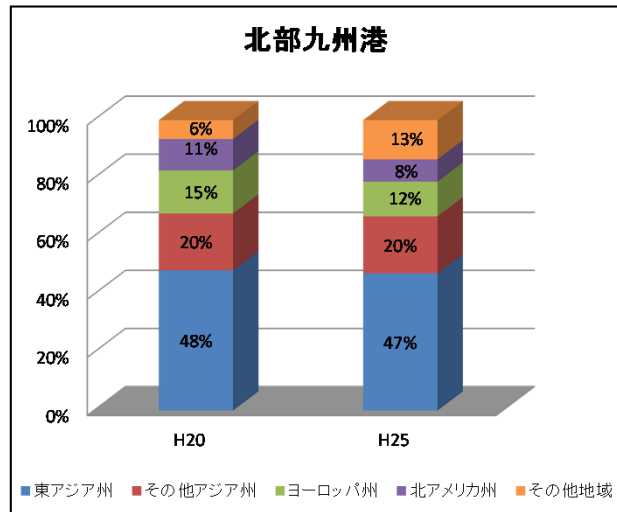


凡例			
利用港湾 (船積・船卸港)			
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:#8B4513;"></span> 管内港利用	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:#FFFF00;"></span> 阪神港利用	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:#6B8E23;"></span> 北部九州港利用 (下関港を含む)	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:#A9A9A9;"></span> その他港利用
コンテナ詰め場所から船積港 (船卸港からコンテナ取出場所) までの輸送手段			
<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:#FFA500;"></span> トレーラ・トラック	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:#ADD8E6;"></span> はしけ、船舶、フェリー	<span style="display:inline-block; width:15px; height:15px; background-color:#9370DB;"></span> ターミナル内移動	

# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## 船積・船卸港別のコンテナ貨物をやりとりする相手地域（輸出・輸入）

○船積・船卸港別に見ると、中国地方管内港は対アジア州が85%、阪神港は対アジア州が60%、対ヨーロッパ・北アメリカ州が36%、北部九州港は対アジア州が67%となっている。

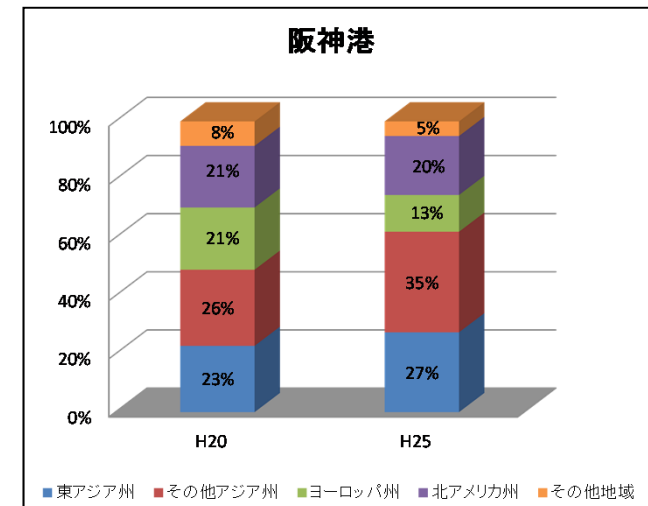
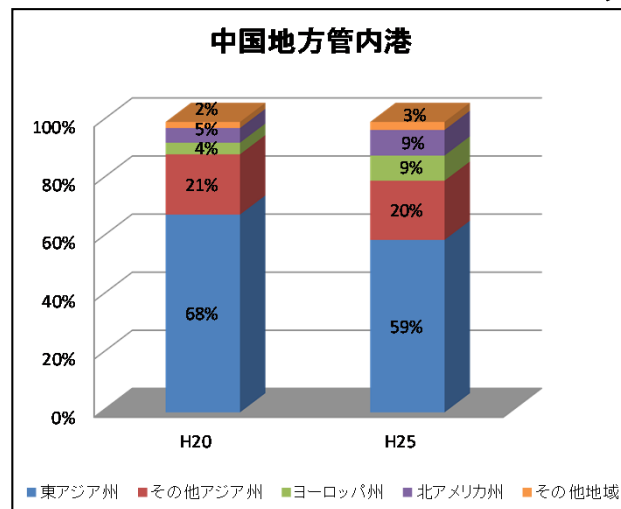
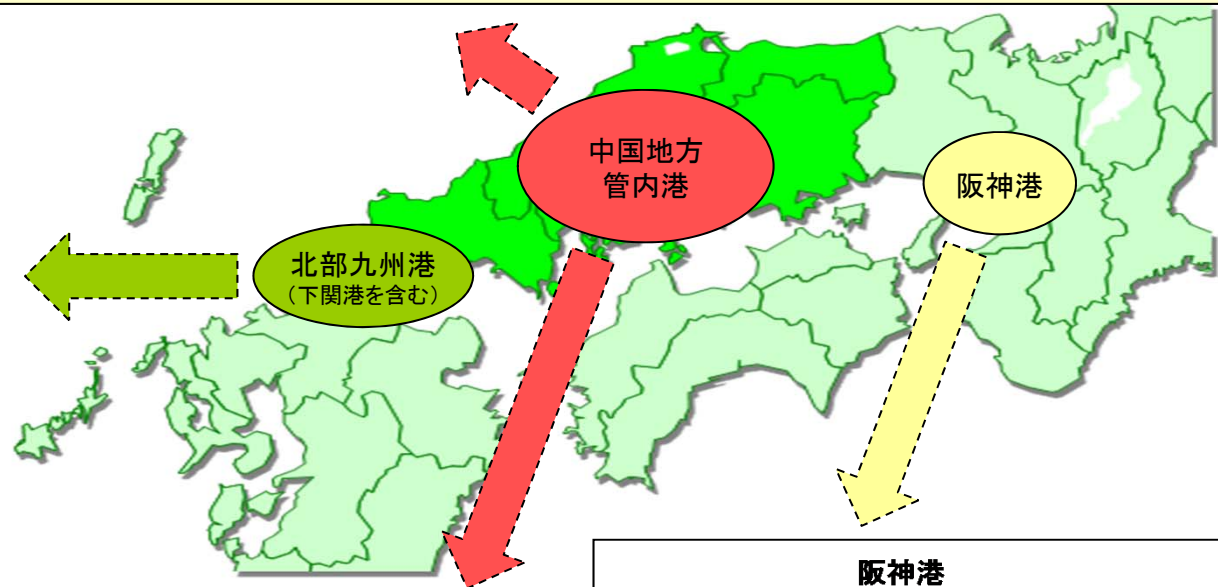
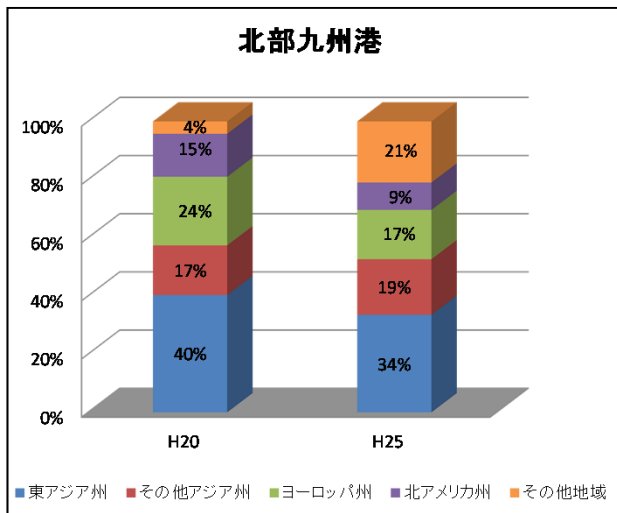


※貨物の海外輸送経路には日本と海外のダイレクト輸送以外に海外でのトランシップを含む。

# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## 船積港別のコンテナ貨物をやりとりする相手地域（輸出）

○船積・船卸港別に見ると、中国地方管内港は対アジア州が79%、阪神港は対アジア州が62%、対ヨーロッパ・北アメリカ州が33%、北部九州港は対アジア州が53%、対ヨーロッパ・北米州が26%となっている。

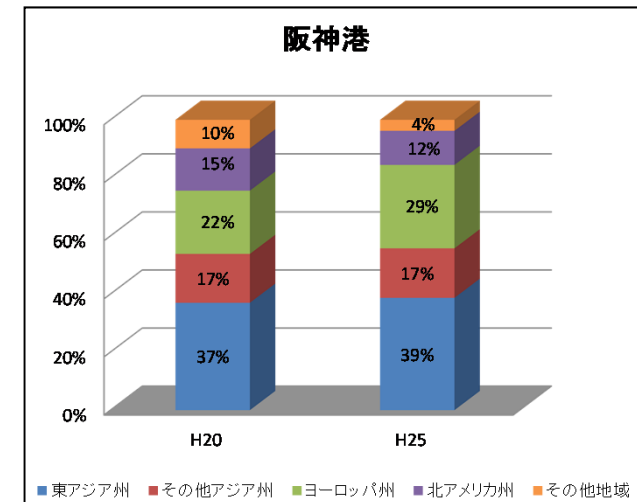
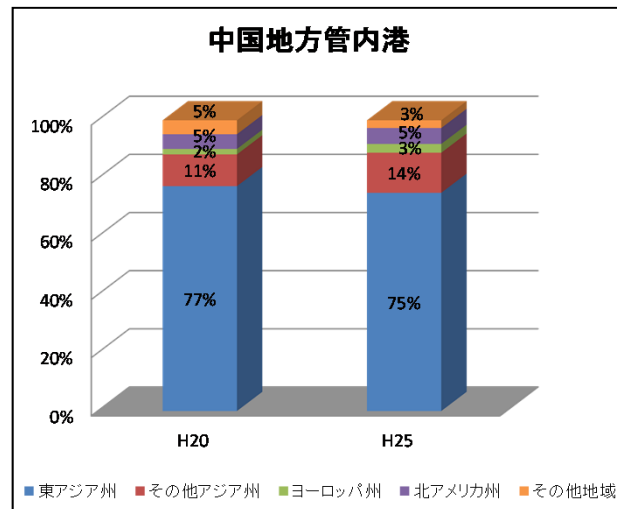
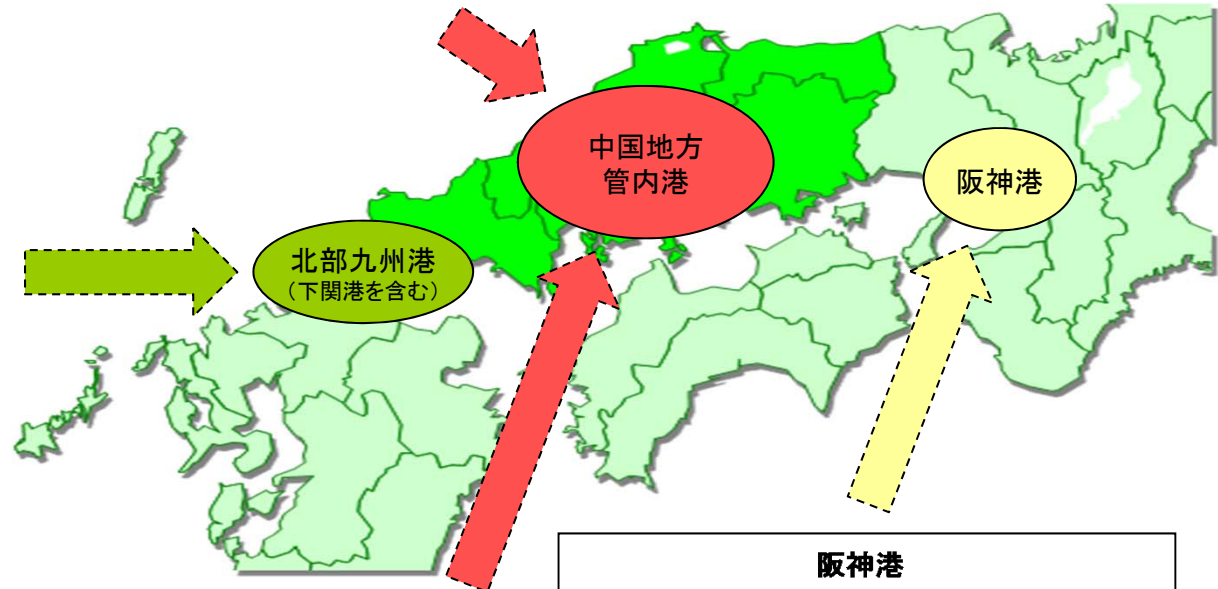
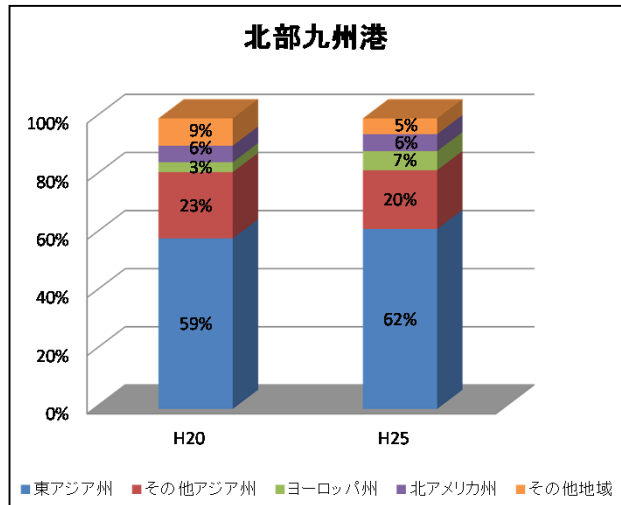


※貨物の海外輸送経路には日本と海外のダイレクト輸送以外に海外でのトランシップを含む。

# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## 船卸港別のコンテナ貨物をやりとりする相手地域（輸入）

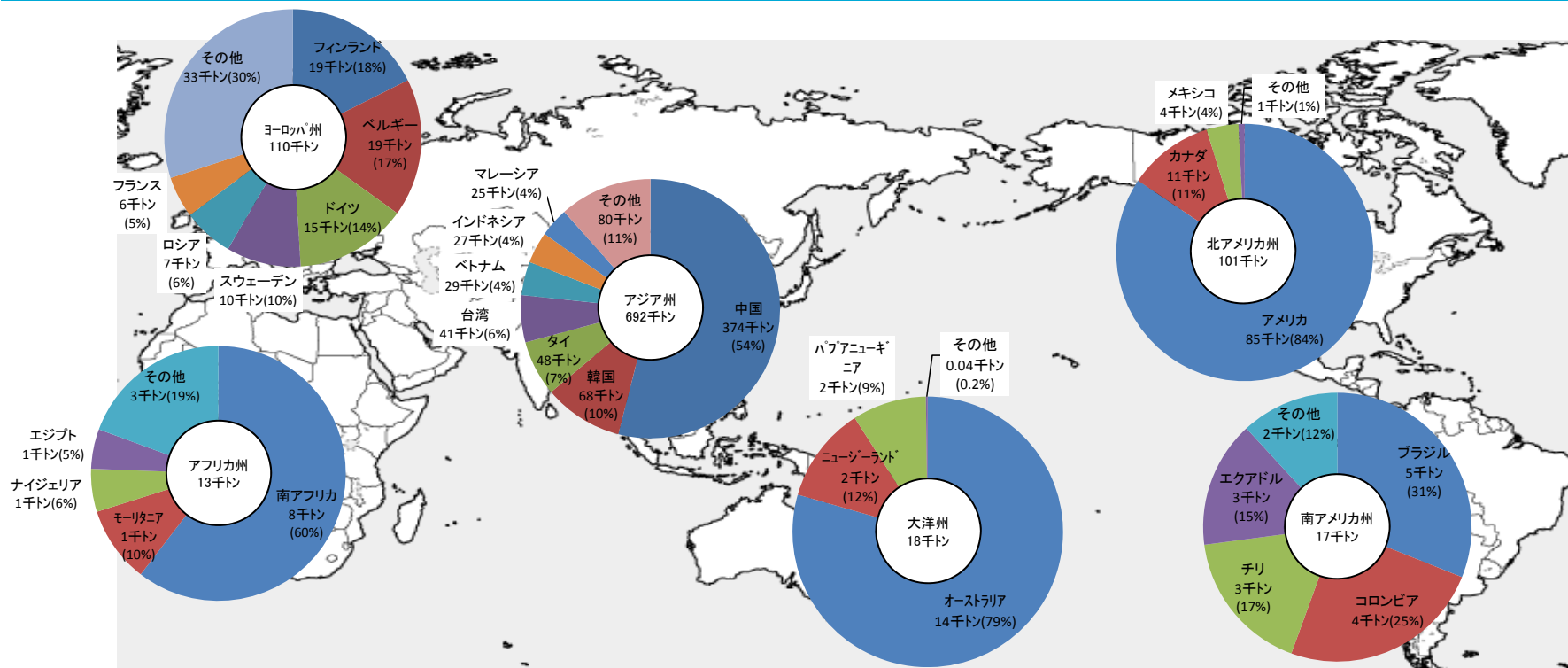
○船積・船卸港別に見ると、中国地方管内港は対アジア州が89%、阪神港は対アジア州が56%、対ヨーロッパ・北アメリカ州が41%、北部九州港は対アジア州が82%となっている。



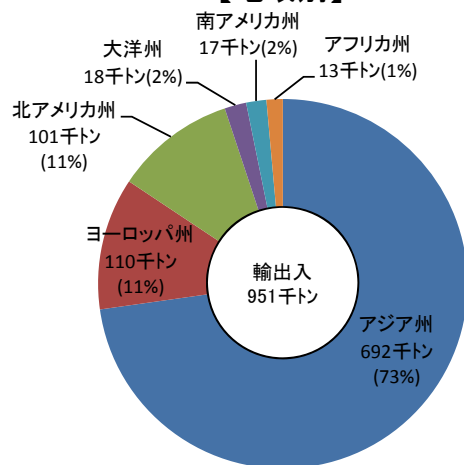
※貨物の海外輸送経路には日本と海外のダイレクト輸送以外に海外でのトランシップを含む。

# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

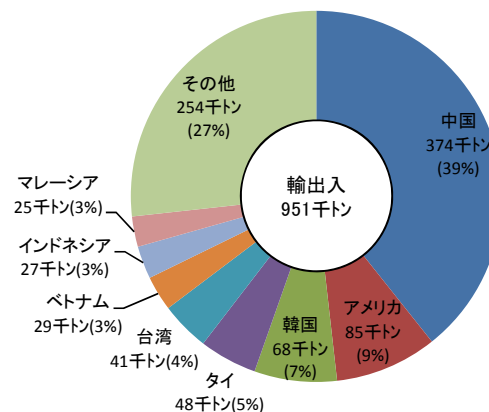
## コンテナ貨物をやりとりする相手地域・国別コンテナ貨物量（輸出入）－平成25年調査－



【地域別】



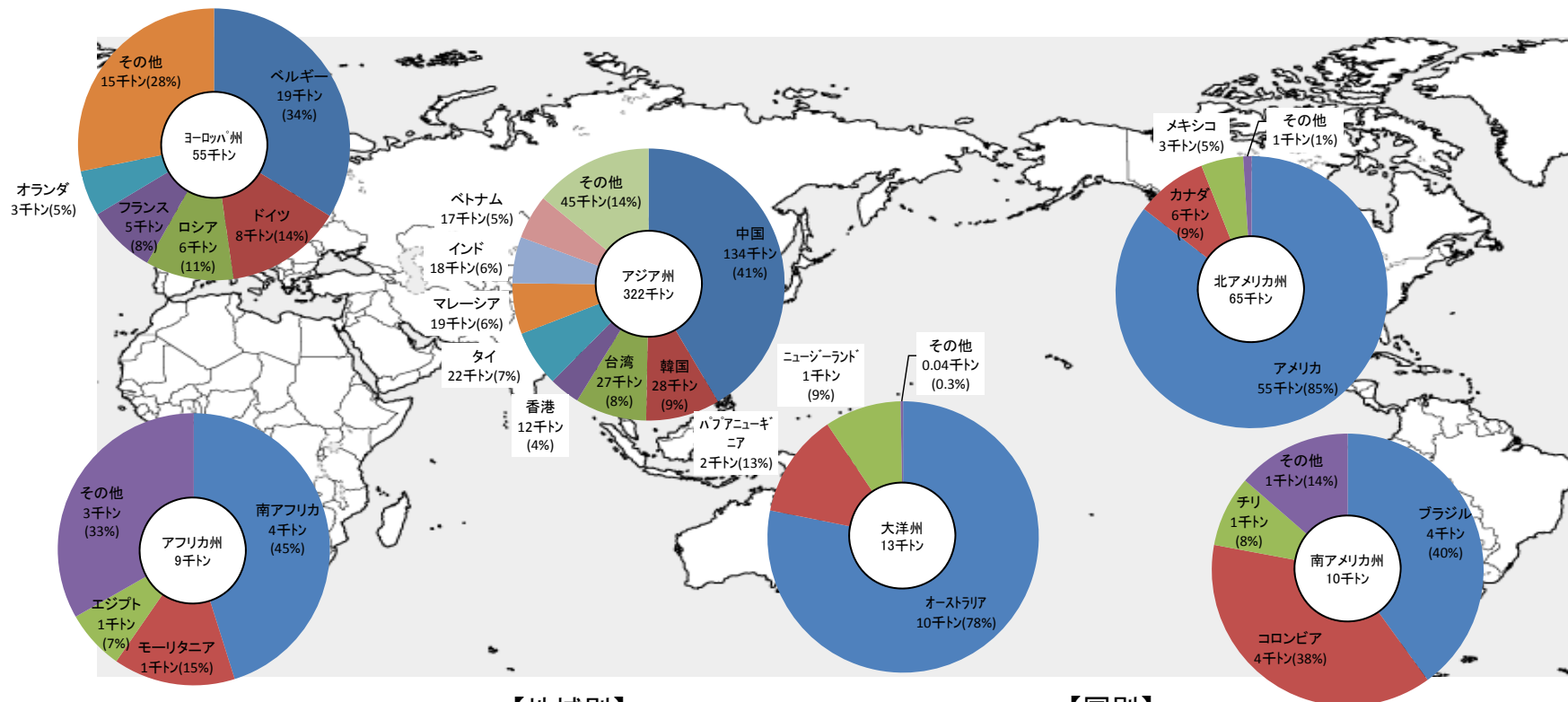
【国別】





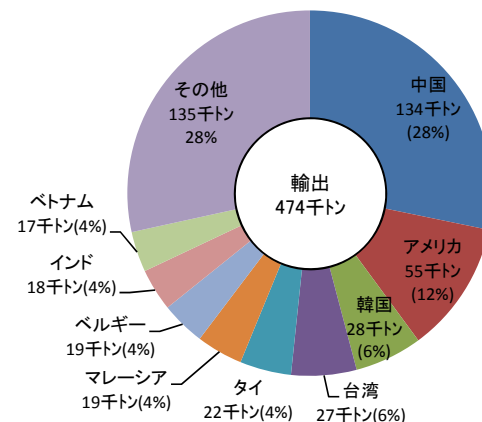
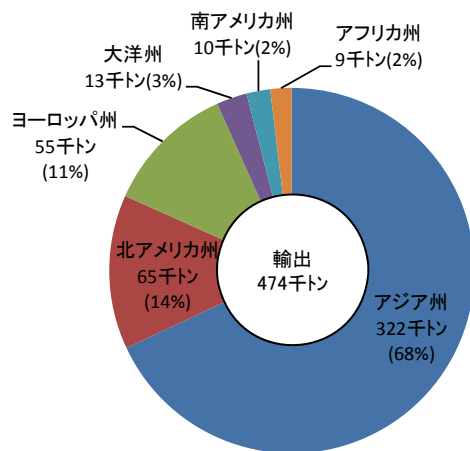
# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

## コンテナ貨物をやりとりする相手地域・国別コンテナ貨物量（輸出）－平成25年調査－



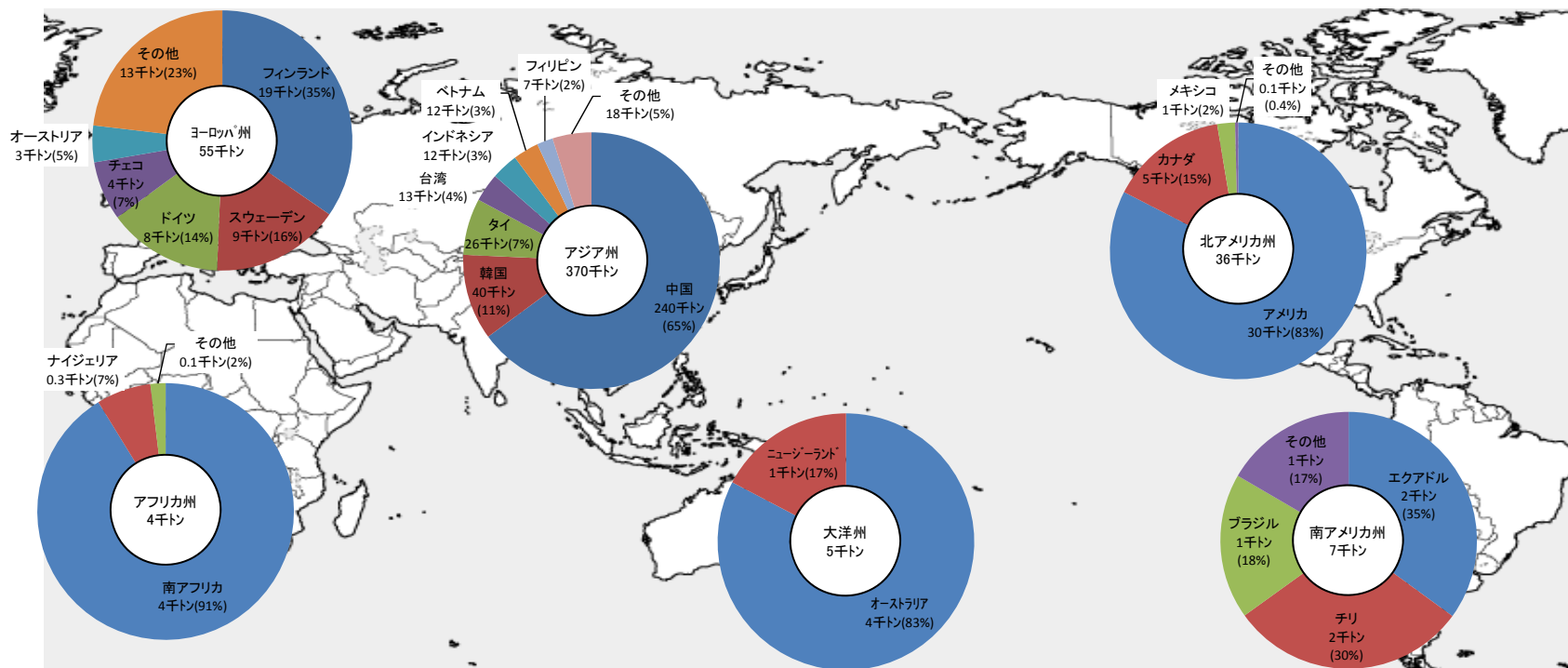
【地域別】

【国別】

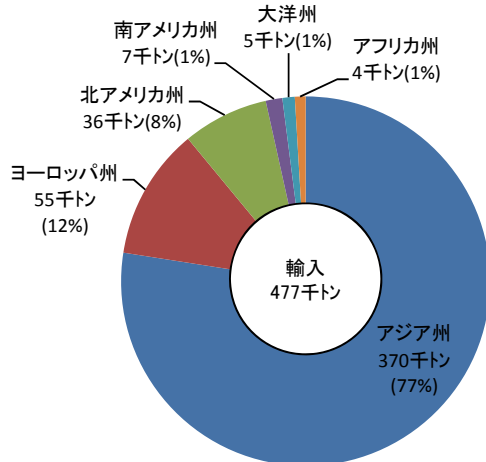


# 【中国地方発着の国際コンテナ貨物】

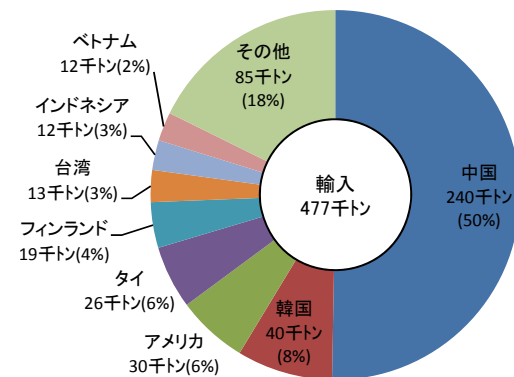
## コンテナ貨物をやりとりする相手地域・国別コンテナ貨物量（輸入）－平成25年調査－



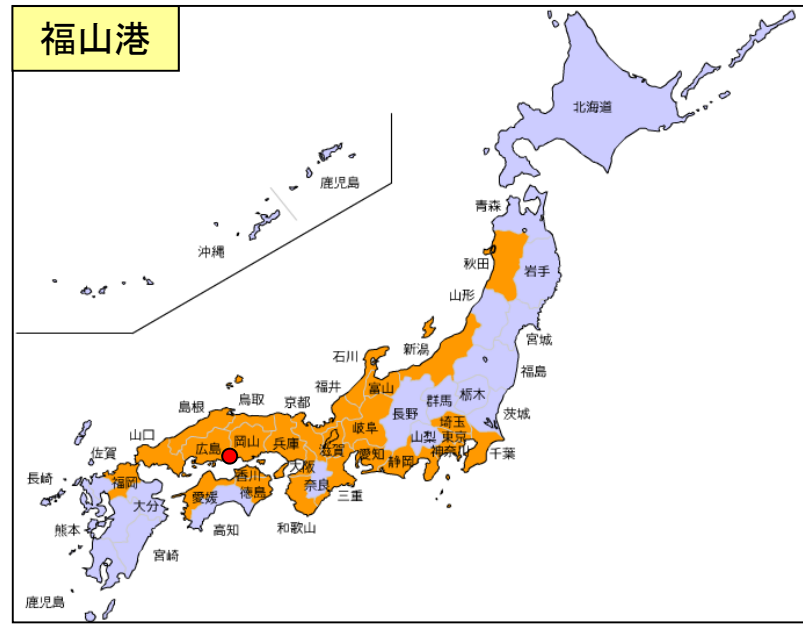
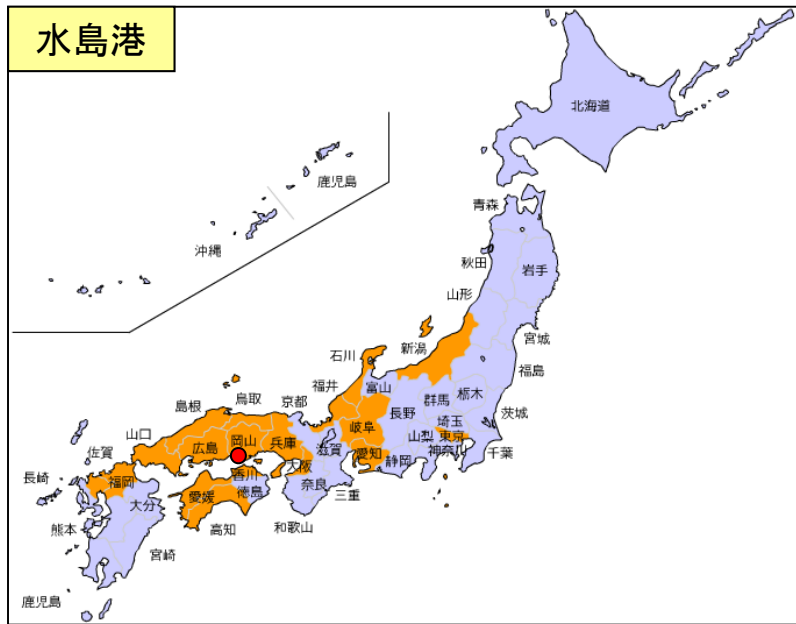
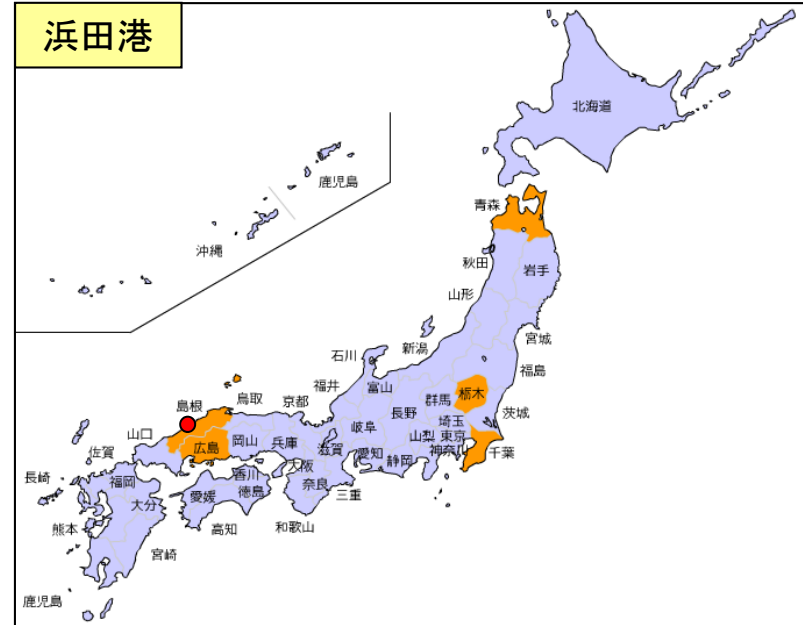
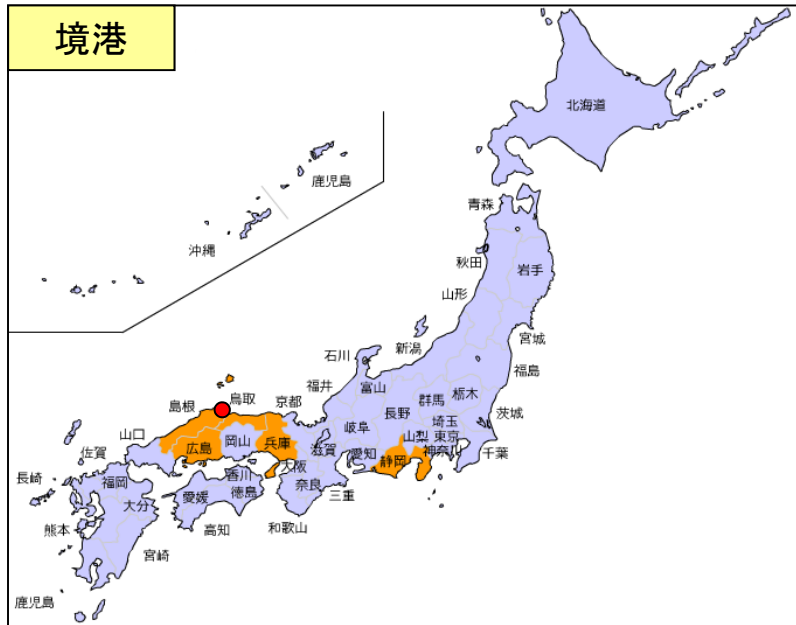
【地域別】



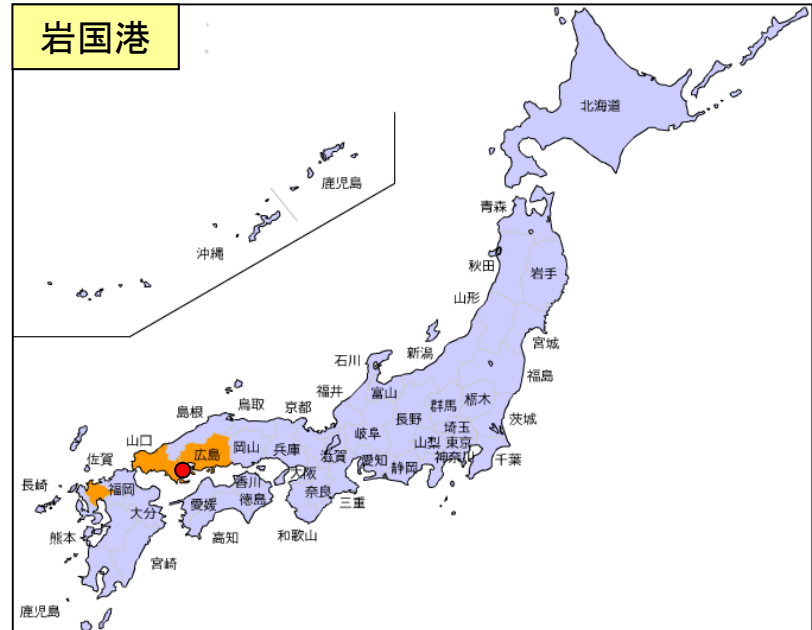
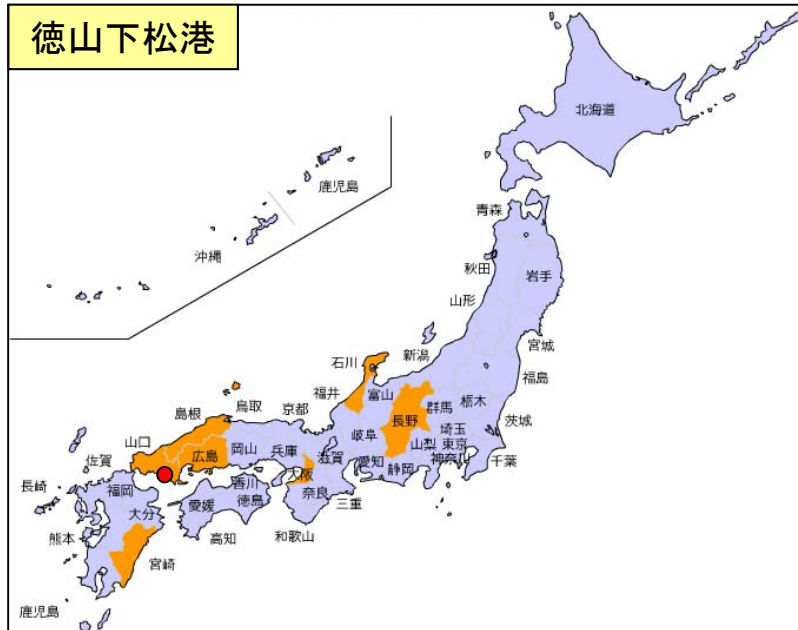
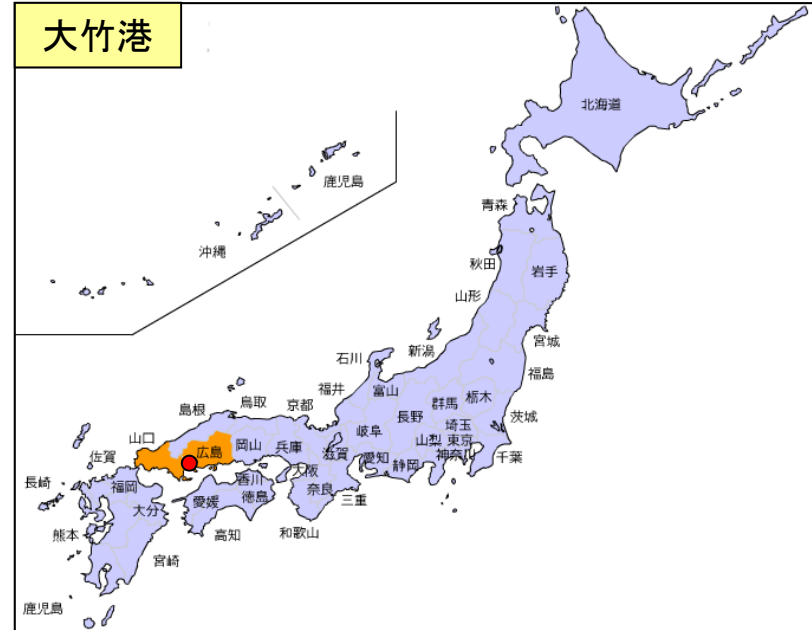
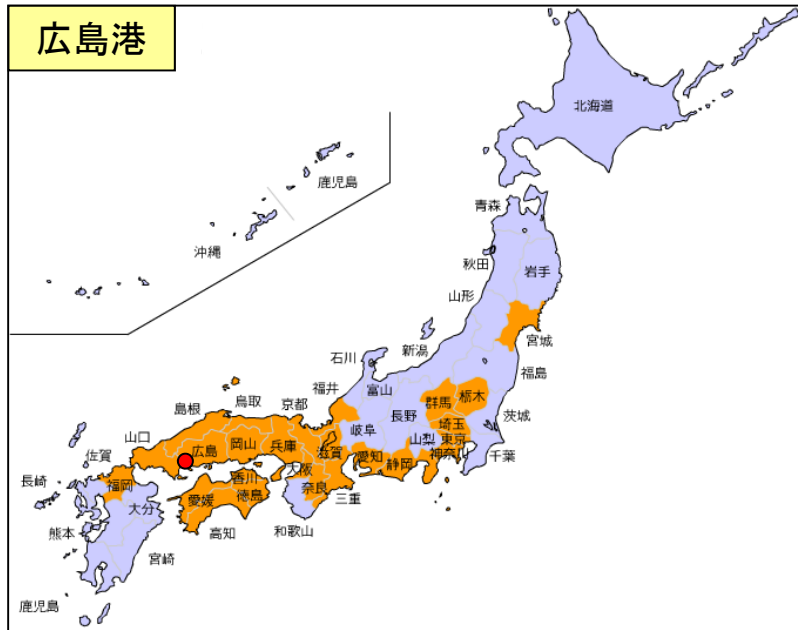
【国別】



# 国際コンテナ貨物を取り扱う中国地方の港湾における背後圏① —平成25年調査—



# 国際コンテナ貨物を取り扱う中国地方の港湾における背後圏② -平成25年調査-



# 国際コンテナ貨物を取り扱う中国地方の港湾における背後圏③ —平成25年調査—

